昭和十二年

市勢要覽

特234
751

0032526000

0032526-000

特２３４－７５１

市勢要覽

宇治山田市

昭和１２年

昭和１２

AFB

時234
751

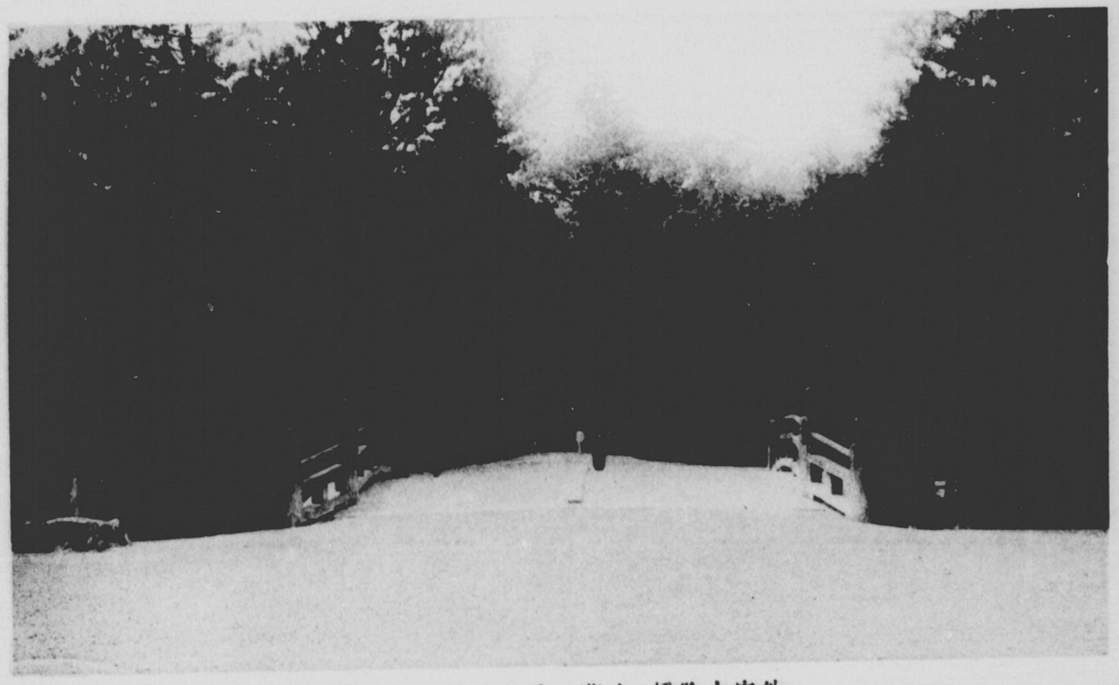
凡例

一、本書は昭和十二年調査に係る本市の産業統計其他の資料に基き各種に亙り主なる事項を摘録せり。

一、本書中何年とあるは暦年にして何年度とあるは會計年度なり。

昭和十二年調査 大阪市

圓覺寺 佛殿



外宮火除橋・木蔭に見ゆるは一の鳥居

保　護

宇治山田市勢要覽目次

皇大神宮……（一）
豐受大神宮……（三）
倭姫宮……（五）
第一　土地……（七）
位置、地勢
沿革
面積及廣袤
民有地
民有租地
第二　氣象……（一三）
氣溫
天候
風力
初霜、初雪
二十六ヶ年平均（一ヶ月）
第三　人口……（一五）
現住人口
人口動態
現住人口職業別
第四　衛生……（一七）
市立傳染病院
病院、醫師、其他
汚物蒐集
埋火葬・死産
傳染病發生數
死亡者病別
第五　社寺、宗教……（二〇）
神社
寺院
教會所
第六　社會……（二二）
職業紹介
恤救
救護
産婦保護

乳兒健康相談所
乳幼兒健康相談臨時開設
眼疾相談所開設
行旅病人並行旅死亡人取扱件數
兒童保護
公益質屋
市營住宅
宇治山田市方面事業後援會施設
神都養老院成績
授產事業成績
農繁期託兒所
宇治山田市佛教團施設
保育園事業成績
同延人員
明照淨濟會施設
宿泊人員成績
幼兒保育成績
教化傳道成績
救護狀況

第七 教育……（二八）

市立中等學校
學齡兒童
市立小學校
學校醫及看護婦
官公私立諸學校
幼稚園
青年學校
圖書館
記念館

第八 交通及通信……（三五）

道路
橋梁
船數
諸車
電車（市內線）
電車（市外線）
汽車
船舶出入
郵便局
電話
電信

第九 旅客……（三九）

神宮參拜人員（一）
神宮參拜人員（二）（學生、生徒）
宿泊人員
接客業
遊戲場
娛樂場

第一〇 生產……（四一）

生產物總額
農產物
米作付反別及收穫高、麥作付反別及收穫高、食用農產物及蔬菜、果實、養蠶、家畜、家禽、牛乳、屠畜、養兎、養蜂
林產物
林野產物
水產物
水產漁獲物
水產製造物
工產物生產額

第一一 金融……（五三）

銀行預金
銀行爲替
郵便貯金
郵便爲替
銀行貸付金
銀行所在地

第一二 會社及工場……（五六）

會社組織種別
會社業種別
會社名
工場業種別
工場

第一三 電氣及瓦斯……（六六）

電力
瓦斯

第一四 各種團體……（六七）

產業團體
商工會議所
農會

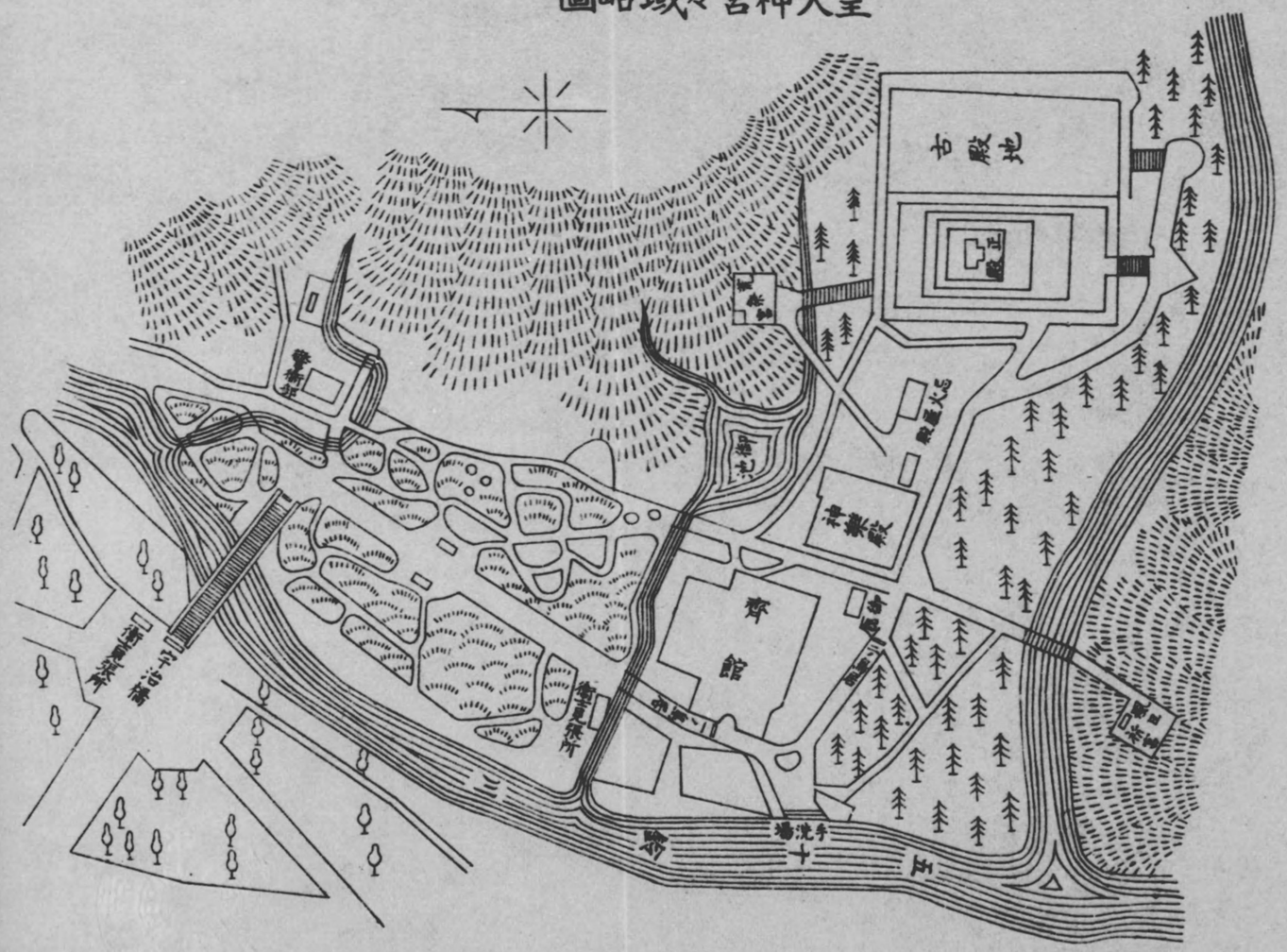
産業組合
工業組合
商業組合
同業組合
準則組合
諸市場
教育關係團體
第一五 議員及吏員……（七三）
選擧有權者及議員定員
市參事會
市委員
市吏員現在數
第一六 財政……（七五）
市經濟
昭和十二年度歳入歳出豫算
歳入
歳出經常部
歳出臨時部
租稅
貢擔割合
第一七 官公署……（七八）
官公署
○附錄
名所、舊蹟、名産

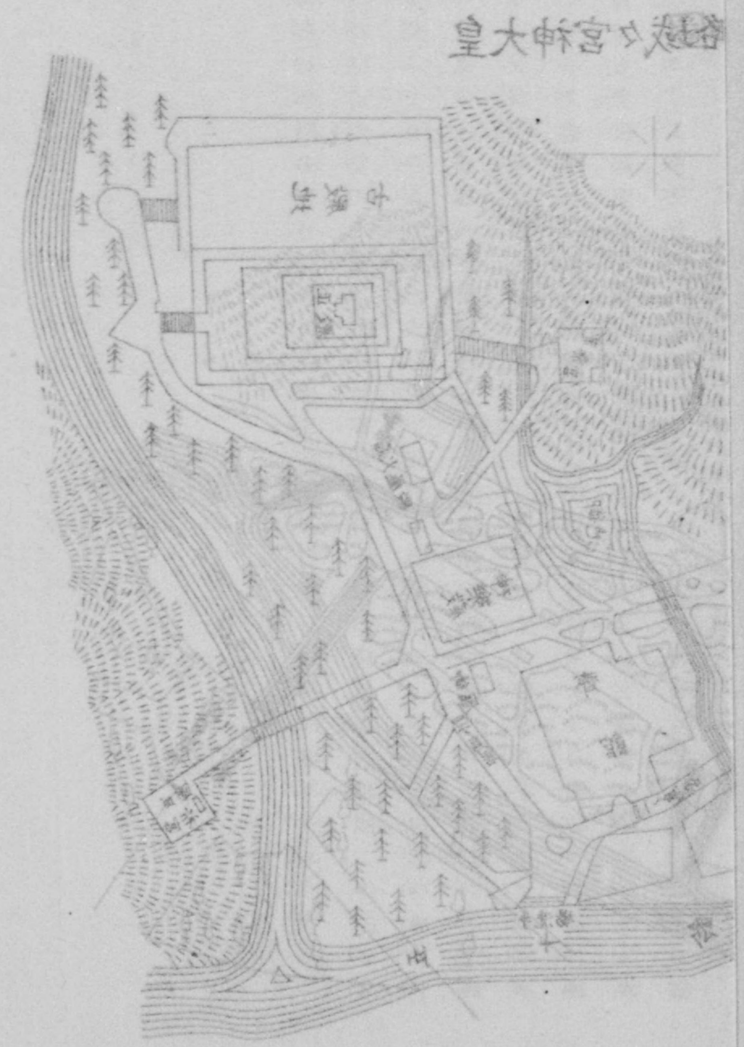
神宮

皇大神宮又內宮とも稱し奉り、五十鈴の川上に坐す、垂仁天皇二十六年、倭姫命皇大神の神靈を奉齋し給ひし所なり、五十鈴川に架せる宇治橋を渡りて神苑に入れば、左方北端岸頭に日本海戰捷記念の大砲身塔あり、右方參道に進めば東西に日清、日露兩戰捷の記念砲あり、一鳥居口御橋近き右方に、大正天皇の東宮に在しゝ

時御參拜記念として御手植遊ばされし松樹あり、一鳥居口御橋を渡れば、左に齋館あり齋館は祭主宮司禰宜以下神官の齋戒參籠する處にして、祭典の時には、此の內庭にて列を整へて參進せらる、一鳥居を入れば左に行在所あり、行幸啓の御時に御休憩遊ばされ、又勅使參向の折にも入らせらる、右に五十鈴川手洗場あり、二鳥居を入れば左に神馬の內御厩あり、御厩の東に大麻授與所神樂殿あり、其の東に五丈殿あり、忌火屋殿あり、忌火屋殿は忌火を以て神饌を調理し奉る所、忌火屋殿の前より南東に進み、石階を上りて本宮に進む、又裏參道は、大麻授與所と內御厩との間を北下して、裏參道口御橋を渡れば、外御厩あり、苑地を迂回して宇治橋に至る。

皇大神宮々域略圖





(ロ) 豐受大神宮

祭神 豐受大御神（トヨウケオホミカミ）

相殿神 御伴神 東一坐 西二坐

豐受大神宮又外宮とも稱し奉り、山田ヶ原に鎮り坐す、雄略天皇二十二年、丹波國より奉遷し給ひし所なり、山田驛より四丁餘にして、神苑あり、苑内には内宮と同じく大正天皇の東宮に在しゝ時の御手植松あり、日清戰捷記念砲あり、日本海戰捷記念の大錨あり、一鳥居の御橋を渡れば、右に清盛樋と稱する老樹あり、左に手洗所あり一鳥居を入れば行在所及齋館あり、二鳥居を入れば右に神樂殿及大麻授與所あり其の西に九丈殿あり五丈殿あり、其の前を直前して本宮に進む、本宮の東側に通ぜるは北御門口と稱し、北進すれば北御門鳥居あり北御門御橋あり、御橋の外は苑地に接す。

豐受大神宮々域略圖

（八）神宮別宮　倭姫宮

祭神　倭姫命（ヤマトヒメノミコト）

倭姫宮は兩宮の中間國道に接せる倉田山に在り、命は　垂仁天皇第二の皇女に在しまして、　豐鍬入姫命に代りて御杖代に立たせ給ひ、　天照皇大神を奉戴し、諸國を巡幸し給ひ、具に辛酸を嘗て近江國より東に美濃國を經て伊勢國に御着、　大御神の教のまに〳〵に、五十鈴の川上に萬代不易の大宮を創建し給ひたる尊き女神に坐します。

一、土地

位置、地勢

東經　一三六度四二分　北緯　三四度四二分

宇治山田市は三重縣の南部に位し度會、志摩の二郡に包まれ、東に五十鈴川、西に宮川を遶らし、南には神路、高倉の靈峰相連り、北は平野に接して伊勢の海に臨む。

沿革

本市は古昔山田ヶ原と稱し、大神宮御鎭座あらせられしより神國(カミクニ)又は神都(シント)とも稱し、源頼朝以來守護使不入の地と定められ、明治維新までは特殊の自治制度たりしなり、今其の大要を擧ぐれば左の如し。

垂仁天皇二十六年、皇大神宮を五十鈴の川上に鎭祭せらるゝに當り、伊勢國造の支族大若子(オホワクゴ)命、自領なる土地卽ち後世の所謂飯野(現時の飯南郡の一部)多氣、度會三

ケ郡を神領として奉獻せしかば、其の地を特に神國と稱し、大若子命を神國造兼大神主(カウヌシ)に任じ、有爾(ウニ)の島墓(トツカ)(現時の多氣郡明星村)に神庫(カムクラ)を設け、神宮の祭祀と神國の政務を兼行せしめられ子孫其の爾職を世襲せり。

孝德天皇大化二年、國造以下凡土地人民を私有する者に令して悉く之を朝廷に返上せしめ、天下を擧げて郡縣の制に改められし時、神國も亦其の内の十郷を度會郡とし、殘りの十郷を竹郡(後に多氣郡と改む)とし、各大領小領を任命せられしも其の神領たることは舊の如くにして、公郡に編入せられず、大若子命の末裔たる大神主吉田、猶二郡の政務を執行せしが、同五年、有爾の島墓たる神庫を山田ケ原沼木郷高河原(現時の宇治山田市大字宮後町)に移し、大神宮司を置き神庫を御厨(ミクリヤ)と改稱し、大神宮司を更任して、二郡其の他諸國の神戸の政務を執行せしめられしかば、大神主吉田は專ら神宮の祭祀をのみ掌ることゝなり、祭政始めて分離するに至れり。

桓武天皇延曆十六年八月、山田ケ原高河原なる神庫を度會郡湯田(ユタ)郷宇羽西(ウハセ)村(現時の小俣町)に移し、齋内親王の離宮なも併設せしかば離宮院とも稱し、一時伊勢國司

或は齋宮寮頭なして諸國の神稅を檢納せしめられしことありしも、數年或は十數年にして大神宮司の職權に復せられしなり。

然るに醍醐天皇の延喜年代の祭主たる人、神領政治を執行せしより、大神宮司の權限漸次に縮少し、崇德天皇の天治比に至りては全く祭主の權力に移りたり。

又神領に關しては、天智天皇の三年、多氣郡の四郷を割きて飯野郡と稱し、公郡に編入せられしも、宇多天皇の仁和五年三月、同天皇御一代の間、神領に寄進せられ、同天皇の寛平九年九月更に永代神領に獻上せられたり、後朝廷より上られたる神領左の如し。

朱雀天皇天慶三年八月、伊勢國員辨郡と尾張國三河國遠江國各十戸。

村上天皇應和二年二月、伊勢國三重郡。

圓融天皇天祿四年九月、同國安濃郡。

後一條天皇寛仁元年十一月、同國朝明郡。

後朱雀天皇長曆二年七月、三河國近江國美濃國上野國各二十戸。

後冷泉天皇永承三年十二月、尾張國近江國美濃國信濃國各二十五戸。
後鳥羽天皇文治元年九月、伊勢國飯高郡と尾張國三河國遠江國各十戸。
是より度會多氣飯野の三郡を神三郡と稱し、これに員弁、三重、朝明、安濃、飯高の五郡を加へて神八郡と云へり。
神領は、此の外に倭姫命皇大神の大宮處を覓めんが爲に、諸國を御巡回あらせ給ひし時、國造等より奉りし地あり、源平以下諸將の獻りし所あり、年を追ふて廣大となりしなり。
然るに平相國清盛、志摩國に亂入せし源氏を擊退せんがために、神三郡へも兵糧米を課せしより、諸國の武士亦附近の神税を横奪し、有名無實の神領多くなるに至りしかば、兩宮禰宜等其の非分を上訴し、神領の興復に努めしも、武士の權勢益々盛にして、其の効なかりしなり、源頼朝政權を掌握するに至り、諸國に守護を置きしが、神領は特に守護使不入の地とせしも、神領の横奪は益々甚しく、北畠氏の伊勢の國司たりし時代には、僅に度會郡宮川以來の地並に多氣郡齋宮、飯野郡相可等に過ぎざ

りしなり。當時祭主の權力亦微弱となりて、政權は宇治山田の豪族の手に移り、後世に至り、宇治會合年寄、山田三方年寄と稱せし者、自治政體を組織し、北畠國司並に織田豐臣兩家の監督を受けて各其の區域を支配せり。
德川時代に至り、宇治年寄、山田三方等の請願によりて、山田奉行を置き、年寄等の施政を監督せしめしが、明治元年七月、山田奉行を廢し、度會府を設けらるゝに至りて全くこの特殊政體は停止せられたるなり。
同二年七月、度會府を廢して度會縣と改め、同四年十一月、鳥羽、久居、度會の三縣を廢して更に度會縣を設け、同九年四月、度會縣を廢して三重縣に合併せられ、同十二年二月、郡制施行の時、宇治山田三十ヶ町は度會郡に屬し、同二十二年四月、市町村制實施に當り、宇治山田を合併して宇治山田町と稱し、同三十九年九月、市制を施行して宇治山田市と改稱したるなり。

面積及廣袤

面積		廣袤			
平方粁	坪、數	極東	極西	極南	極北
六一、〇三六平方粁	一八、四六二、〇〇〇坪	河崎町	宮川町	今在家町	船江町

民有地

有租地	
昭和十一年中ニ於ケル免租地	
七九一町六反九畝一〇歩	八反二畝二九歩

民有有租地

地目	反別	賃貸價格
宅地	七八九、五六二坪	八〇〇、四八六圓二九
田	一八八町七反二畝一四歩	四八、八三三圓二七
畑	一一四町四反八畝一八歩	一八、七五七圓三七
雑地	二二五町二反九畝一六歩	三、八五一圓二五

二、氣象

昭和十一年

氣溫

最高	最低
三四、五度（七月二十九日）	〇、四度（一月十七日）

天候

快晴	晴	曇	雨	雪	霜	雷鳴	地震回數	霧
一〇九	一二七	八四	四五	—	三六	四	一	—

風力

無風	軟風	和風	疾風	強風	烈風	颶風
一	一〇一	九一	一六八	四	—	—

初霜、初雪

前年ニ至ル當年

	初霜	終霜	降霜期間	初雪	終雪	降雪期間	初霜	初雪
二十六ヶ年平均（一ヶ月）	十一月十四日	四月五日	百四十三日	一月十二日	三月十八日	六十五日	一月八日	一月十二日

快晴	晴	曇	雨	雪
六、八	一二、五	四、五	六、五	〇、一

三、人口

現住人口

區別	本籍人口 男	本籍人口 女	本籍人口 計	戸數	現住人口 男	現住人口 女	現住人口 計	一戸平均人口
昭和九年	二三、三二八	二三、三〇二	五六、六四〇	一〇、四八八	二三、九二九	二六、三三八	五〇、二五七	四、七八
昭和十年	二三、七二四	二三、七四一	四七、四七五	一〇、六〇二	二五、〇二三	二七、四六六	五二、四八九	四、九五
昭和十一年	二四、〇六七	二四、一五五	四八、二二二	一〇、七二二	二四、一九二	二六、九二九	五一、一二一	四、七七

人口動態

區別	婚姻	離婚	出生	死亡	死産	入寄留	出寄留
昭和九年	五四三	四一	一、三六一	八九三	五二	三、五六五	一、七七七
昭和十年	六三七	四三	一、四五九	八七一	四七	三、八二五	二、一四六
昭和十一年	六〇二	三八	一、三九二	八一五	四五	三、七二六	二、七二八

現住人口職業別

區別	戸數	人口 有業者 男	人口 有業者 女	人口 有業者 計	人口 無業者 男	人口 無業者 女	人口 無業者 計	人口 合計 男	人口 合計 女	人口 合計 計
農業	二八一	三九九	二九六	六九五	三六一	五〇八	八六九	七六〇	八〇四	一、五六四
水産業	三三	二六	五	三一	一五	三〇	四五	四一	三五	七六
鑛業	二	二	—	二	三	五	八	五	五	一〇
工業	二、五七三	三、八〇七	一、六〇三	五、四〇九	二、九〇一	五、六八五	八、五八六	六、七〇八	七、二八七	一三、九九五
商業	二、九五六	四、五八五	三、〇八四	七、六六九	三、〇六二	五、三九〇	八、四五二	七、六四七	八、四七四	一六、一二一
交通業	七五九	九七八	四四	一、〇二二	八三四	一、六六七	二、四九一	一、八一二	一、七〇一	三、五一三

公務自由業	一、三二一	一、三三四	四四四	一、七七八	一、二九四	二、五二六	三、八二〇	二、六二八	二、九七〇
家事使用人	三三五	三二七	七一	三九八	三三六	六三四	九六〇	六五三	七〇五
其他有業者	一、三五四	一、三〇二	三九〇	一、六九二	一、三二七	二、三七四	三、六〇一	二、五二九	二、七六四
無業	一、二二九	—	—	—	一、四〇九	二、一九四	三、六〇三	二、一九四	二、一九四
計	一〇、七二二	二、七六〇	五、九五六	一八、六九六	二、四三二	二、〇〇三	三二、四三五	二四、一九二	二六、九三九

收容定員	一ヶ年收容患者數	全治者	年末現在收容人員	病室	醫師	事務員
四五	四六	三六	八	三〇	一	三

四、衛生

昭和十一年

市立傳染病院

病院、醫師其ノ他

病院	公立	私立	醫師	齒科醫師	藥劑師	産婆	看護婦	鍼灸按摩
	二	五	八〇	三四	四六	六七	二七	九六

汚物蒐集

蒐集戸數	搬出延人員	人夫使用日數	汚物重量 汚泥	汚物重量 塵芥
一〇、三八二	四、九六四	一、四一六	四七九、八四〇貫	九八八、六三五貫

埋火葬死産

區別	埋葬 男	埋葬 女	火葬 男	火葬 女	死産 男	死産 女	計
昭和九年	三三六	三二	二三一	一六五	三五	二七	一、〇九五
昭和十年	三一〇	二八四	二八八	一九八	二八	一九	一、〇三七
昭和十一年	二九〇	二五一	二二四	一九四	二三	二三	一、〇〇四

傳染病發生數

區別	腸チフス	腸チフス疑似症	赤痢	赤痢疑似ザフテリア	疫痢	猩紅熱	痘瘡	パラチフス	流行性腦脊髓膜炎	計
昭和九年	五〇	—	一〇	二二	二四	一〇	—	七	一	一二八
昭和十年	二六	—	一四	八	二九	一四	—	三	—	一二六
昭和十一年	一九	—	一二	一六	一九	二	—	四	—	一〇三

死亡者病別

病名	男	女	病名	男	女
肺結核	六五	五五	泌尿生殖器ノ疾患	二四	三〇
其ノ他ノ結核	三三	三三	姙娠及産	—	三
癌	一五	一五	先天性畸形	—	—
其ノ他ノ腫瘍	四七	四一	皮膚及皮膚下組織ノ疾患	—	二
其他ノ流行病地方病及傳染病	六	八	骨及運動器ノ疾患	一	二
全身病			老年	九	二七
アルコール中毒	一	—	乳兒	三五	三八
其ノ他血液及造血臟器ノ疾患	三	二	外因死	一六	一
神經系及感覺器ノ疾患	八二	五〇	不明ノ診斷及不詳ノ原因	一	一
血行器ノ疾患	二三	三六	合計	五二四	四四二
呼吸器ノ疾患	一〇四	一三			
消化器ノ疾患	六二	三八			

五、社寺、宗教

昭和十一年

神社

縣社	村社	無格社	計
一	一〇	二	一三

寺院

眞宗	淨土宗	天台宗・日蓮宗	臨濟宗	眞言宗	曹洞宗	計
一	二	三	一	二	三	一三

教會所

基督教	黑住教	金光教	天理教	計
二	一	四	八	一五

六、社會

昭和十一年

職業紹介

區別	求職數 男	求職數 女	求職數 計	就職數 男	就職數 女	就職數 計
昭和九年	八三四	九五六	一、七九〇	六七〇	五七五	一、二四五
昭和十年	一、七六一	二、一三三	三、八九四	七〇一	七三七	一、四三八
昭和十一年	二、五〇五	一、九一六	四、四二一	六九七	一、〇三四	一、七三一

區別	求職數 男	求職數 女	求職數 計	就職數 男	就職數 女	就職數 計
昭和九年	二六八	三六三	五七六	五七六	三六三	九五八
昭和十年	四一一	五四七	九五八	四一一	五四七	九五八
昭和十一年	五六七	九四二	一、五〇九	五六七	九四二	一、五〇九

恤救

區別	公費救助者 延人員	公費救助者 金額	濟生會治療券交付延數	軍事救護者
昭和九年	二、三九六	五、五三五、三七円	八〇八	一一
昭和十年	三、四八六	五、九五二、一五	六六九	一三
昭和十一年	三、八〇七	六、七三五、六四	七三〇	一二

救護

昭和十一年

神都醫療會診療券	三、五〇〇
日本赤十字山田病院貧困證明ニ依ル救療	二八
無料宿泊	八九

妊產婦保護

職員	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
醫師	四一	三七	三八
產婆	六七	三八	三四

乳兒健康相談所

醫師	開設日數	健康			不健康			計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
四一	三六五	七八	七二	一五〇	二九	一三	二五一	二〇七	一九四	四〇一

乳幼兒健康相談臨時開設

開設場所	開設期	相談人員	成績	
			優良兒	普通兒	虚弱兒
市內各小學校	昭和十一年三月五月十一月	一、三五三	七六	六六六	二七一

眼疾相談所開設

開設期	相談人員	種別					
		トラホーム	近視	遠視	結膜炎	角膜炎	白內障	開眼	其他
昭和十一年十月二十日	二六四	八一	三	三	七二	五〇	一三	六	一九

行旅病人並行旅病死亡人取扱件數　昭和十一年

取扱件數			死亡數			全治數			現在數		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
五	一	五	二	一	三	一	一	二	一	一	二

精神病者監置數　昭和十一年

前年ヨリ越員			本年監置數			死亡			全治			現在		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
五	一	六	一	一	二	三	一	四	一	一	二	六	一	七

兒童保護　昭和十一年

公益質屋

取扱數 男	取扱數 女	取扱數 計	兒童虐待防止法該當者 男	兒童虐待防止法該當者 女	兒童虐待防止法該當者 計	男女少年救護法該當者 男	男女少年救護法該當者 女	男女少年救護法該當者 計
三	一	四	一	一	二	三	一	四

名稱	所在地	業務開始ノ日	資金	利率	辨濟期間	貸付 口數	貸付 點數	貸付 金額	辨濟 口數	辨濟 點數	辨濟 金額	利子收入
宇治山田市公益質屋	宇治山田市大字宮後町	昭和七年十二月二十日	四〇、〇〇〇円	百分ノ一	四ヶ月	二八、八九二	九七、〇三〇	一〇八、四六六円	二八、四八三	九二、九九三	一〇六、二九三円	四、一九六円

市營住宅

住宅箇所	戸數	敷地總坪數	建坪總數	種類 貸與	種類 年賦賣却	一ヶ年收入
五	三九	一、〇七六、二五坪	五六〇、七五坪	二六	二三	一、三二四円

宇治山田市方面事業後援會施設

神都養老院成績　昭和十一年中

性別	入院狀況 前年越員	入院狀況 本年入院	入院狀況 計	退院 死亡	退院 其他	退院 計	現在 健	現在 否	現在 計
男	六	二	八	一	一	一	八	一	八
女	四	二	六	二	一	三	四	一	四
計	一〇	四	一四	二	二	三	一二	二	一二

授産事業成績　昭和十一年

授産種別	從事者實人員	延人員	加工賃支拂額
組紐授産部	三〇	四四二	五三四円
ビーズ授産部	六〇	六三三	八七五

農繁期託兒所

開設場所	開設期節	保姆	託兒實人員	延人員
宇治山田市大字一之木町	春季（六月）	二名	四〇	一、一〇
小柳	秋季（十一月）	二	四五	一、一〇五

宇治山田市佛教團施設

保育園事業成績　昭和十一年度

開設場所	託兒男女別	當才	二才	三才	四才	五才	六才	七才	計
宇治山田市大字宮後町	男	一	一	四	七	一四	八	三〇	六四
	女	一	二	三	九	一三	六	二一	五四
計		一	三	七	一六	二七	一四	五一	一八

同延人員

種別	幼兒ノ部		乳兒ノ部		合計	
	實人員	延人員	實人員	延人員	實人員	延人員
在籍數並延人員	一〇八	二八、四二三	一〇	二、七九一	一二八	三一、二二四

明照淨濟會施設

職業紹介成績　昭和十一年度

種別	求人數			求職數			就職數		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
取扱狀況	六九九	一三三	八三二	三九二	五七	四四九	二七五	三二	三〇七

宿泊人員成績　昭和十一年度

種別	宿泊人員			宿泊延人員			飲食物實費給與數		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
取扱狀況	三九六	一三	四九九	八、七六一	一、七〇八	一〇、四六九	二六、一〇八	四、八六三	三〇、九七一

幼兒保育成績　昭和十一年度

種別	五才未滿			六才			七才			計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
實人員	四一	二	六〇	一六七	九九	二六六	三三	二九四	六二七	九二一

教化傳道成績　昭和十一年度

精神修養講演會	佛教講話出張數	宿泊人慰安會	揭示傳道	計
一五	二	一三	六一	一一〇

救護狀況 昭和十一年度

飲食物救助延人員	飲食物救護回數	送藥救助	旅費救助	着類救助	奉仕理髮
一、二三二	三、三六一	三三	二二	一一	二八七

七、教育

昭和十一年

市立中等學校

校名	教員數	生徒數	創立以來卒業者數
三重縣宇治山田高等女學校	二九	八三五	二、九三〇

學齡兒童

區別	就學	不就學	百人中就學歩合
男	三、六六八	一五	九九、五九人
女	三、五九三	七	九九、八一
計	七、二六一	二二	九九、七〇

市立小學校

學校醫及看護婦

學校名	位置	創立年月	教員配置 本正 男	本正 女	專正 男	專正 女	准代用計 男	准代用計 女	學級數	兒童數	一學級平均兒童數
進修尋常高等小學校	宇治山田市中之切町	明治十六、二	八	三	一	一	一	一	一〇	四九二	四九、二
修道尋常高等小學校	久世戸町	明治十六、二	九	四	一	一	一	一	一〇	五四〇	四五、〇
有耕尋常高等小學校	船江町	明治十六、一〇	一四	九	一	一	一	一	一六	一、二五三	五七、〇
早修尋常高等小學校	常磐町	明治十五、九	一五	八	一	一	一	一	一六	一、三五九	六一、八
中島尋常高等小學校	中島町	明治十四、八	一六	六	一	一	一	一	一七	一、二一〇	五五、〇
明倫尋常高等小學校	岩淵町	明治十五、九	一五	八	一	一	一	一	一六	一、二一七	五七、八
厚生尋常高等小學校	一志久保町	明治十六、七	二八	一五	一	一	一	一	二九	二、三七七	五八、〇
合計			一〇五	五三	五	六	一	一	四	二	一四	六一	一五一	八、五〇二	五四、八

官公私立諸學校

種別	人員 最高	人員 最少	人員 合計
校醫	八	一	一
齒科醫	一六	三〇	三〇
學校看護婦	七	一	一

校名	設立區別	教員	生徒 本	生徒 普	前年度卒業者	入學志願者	入學者	經常	臨時
神宮皇學館	官立	四五	二三一		四九	三五二	六〇	一三六、二九四 円	二、〇〇〇 円
宇治山田中學校	縣立	四一		一二五	二〇	毛	二〇三	五四、四六一	—
宇治山田商業學校	縣立	二六	六四六	九四〇	九二	二一七	一四六	三六、六六九	—
宇治山田商工實務學校	私立	四	四六		三	六六	六六	八〇〇	—
宇治山田女子技藝學校	私立	四	四二		一〇	一六	一六	九六〇	—

昭和十一年度歲出豫算

幼稚園

學校名	位置	設立區別	組數	保姆	幼兒	昭和十一年度經費 經常費	臨時費
三重百日算簿記學校	私立	三	一五二	五〇	三一	二六	一、一〇〇	一五〇
井上速算學校	私立	五	三六八	二三三	六〇	五九五	三、五三〇	一〇〇
珠算簿記學校	私立	二	一〇九	八〇	一〇	一〇〇	一、四〇〇	一五〇
珠算專修學校	私立	三	一七〇	四三	二〇〇	一九〇	一、五一〇	一〇〇
寺田助產婦教育所	私立	六	三五	二〇	二八	一六	一、三〇〇	—
三重看護婦學校	私立	一〇	六六	二六	六八	三五	一、六三四	—
東洋紡績株式會社附屬看護婦學校	私立	一	六〇	三〇	二〇九	三〇	一三、一〇〇	二〇〇
神都訓盲院	私立	六	三三	三七	九	九	一、七二七	一〇〇
五十鈴川幼稚園	宇治山田市中之切町	私立	二	二	六五	一、〇五七	二、〇五一	—
有緝幼稚園	船江町	私立	二	三	二〇			
曾禰幼稚園	曾禰町	私立	三	四	一〇	二、四七三	一、二六〇	二〇
中島幼稚園	中島町	私立	二	三	七五	一、三九七		—
常磐幼稚園	宮後町	私立	二	二	四七			

青年學校

學校名	職員數	生徒數 第一年	第二年	第三年	第四年	第五年	研究科	計	前年終了人員	昭和十二年度經費
進修青年學校	六	一六	一	八	一	六	五	五七	四	給料 九〇三〇
修道青年學校	六	九	六	八	五	五	四	三七	四	手當 四一〇
有緝青年學校	七	九	三	三四	三一	二一	八	一三五	三	慰勞金 五四六
早修青年學校	七	一四	二四	一一	一九	一六	一一	九五	一七	旅費 一八〇
中島青年學校	七	八	一四	二二	二五	一八	一五	一〇一	八	備品費 一〇九五
明倫青年學校	七	一九	一八	二六	一八	二三	二六	二三九	二〇	消耗品費 四二八
										其ノ他 一、五三〇

円

厚生青年學校	七	二九	四五	四一	四一	三〇	三七	二四	二三	二四	
計	四七	一〇四	一四〇	一四九	一五〇	一二八	一二六	七七	一〇〇	計	一三、二二

圖書館

名稱	位置	開館日數	閲覧總人員	閲覧人員最高最低		一日平均	藏書冊數		
				最高	最低		和漢書	洋書	合計
神都圖書館	字治山田市岩淵町	二七四	二四、四八一	八月 三、九〇一	十月 九八三	八九、三五	八、三三九	七九	八、三二八

記念館

名稱	位置	觀覽人員	觀覽人員內譯				團體觀覽人員		觀覽者一日平均	最高及最低	
			大人	小人	普通團體	中學生	小學生			最高	最低
神都記念館	字治山田市岩淵町	四〇、一八六	三、三四	六二	五九	一、七八三	三四、五〇九		一七	十月 一三、三〇五	十月 一七九

八、交通及通信

道路

國道	縣道	市道	計
七、九四三米	三二、三四三米	八七、九〇四米	一二八、一九〇米

橋梁

	縣營	市營
長サ二米以上二十米未滿	六二	五
長サ二十米以上八十米未滿	六六	三

船數

電車

噸數船	漁船	小形船
一	八三	八一

軌道延長	車輛數 客車	車輛數 貨物車	乘車人員 昭和九年	乘車人員 昭和十年	乘車人員 昭和十一年
一五、二哩	二四	一	二、一三六、七二一	二、九三八、四五五	二、九五六、一四四

電車

旅客	線名	乘客 昭和九年	乘客 昭和十年	乘客 昭和十一年	降客 昭和九年	降客 昭和十年	降客 昭和十一年
旅客	參宮急行電鐵	九二八、八八二	一、〇二三、九四五	一、〇五五、三九七	一、〇四一、五七五	一、〇六三、五一六	一、〇一九、六九二

汽車

旅客		乘客 昭和九年	乘客 昭和十年	乘客 昭和十一年	降客 昭和九年	降客 昭和十年	降客 昭和十一年
旅客	山田驛	八六二、三〇二	八九四、七七四	九七三、八五九	九六四、四八九	一〇〇五、五九三	一、〇〇七、九〇六
	山田上口驛	一五三、四九二	一八二、九三四	一八六、二七五	一三七、三七七	一六五、九〇二	一六二、六八八
	計	一、〇二五、七九四	一、〇七七、七〇八	一、一六〇、一三二	一、〇一、八六六	一、一七一、四九五	一、二三〇、五九四

貨物		發 昭和九年	發 昭和十年	發 昭和十一年	着 昭和九年	着 昭和十年	着 昭和十一年
貨物	山田驛	一九、六九一噸	二〇、七五九噸	二一、八三四噸	三八、六二四噸	三七、四二六噸	三九、一六八噸
	山田上口驛	七、三五二	八、七六三	八、一四二	一〇、五二八	一四、八四二	一五、三六六
	計	二七、〇四三	二九、五二二	二九、九七六	四九、一五二	五二、二六八	五四、五三四

船舶出入

區別	船舶	噸數	移出入貨物 昭和九年	移出入貨物 昭和十年	移出入貨物 昭和十一年
移出	一三、七三八	一二五、三三五	一、七三〇、八一〇円	一、八〇一、九六九円	一、九四〇、五〇五円
移入			一、六四四、一〇五	四、一二九、九七一	三、九三一、一八〇

郵便局

集配局	無集配局	切手賣捌所	郵便函	郵便物引受	郵便物配達	小包 引受	小包 配達
一	六	七四	八四	五、六九七、八三一	五、三九一、五一四	九九、五〇五	七三、九一二

電話

交換局	電話事務員	加入者數	市内通話數	市外通話數	合計	一日平均
一	八〇	一、五四八	八、五三六、六二〇	三三二、八九五	八、八五九、五一五	三三、三八八

電信

發信	着信	中繼信
五〇、八〇五	五四、六〇九	二二二、三六二

九、旅客

神宮參拜人員ノ一

區別	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
内宮	一、七四九、三四五	一、八九一、七九三	二、〇六四、二二二
外宮	二、〇六二、〇七一	二、二六四、三二六	二、三〇九、四一四
計	三、八二一、四一六	四、一五六、一一九	四、三七三、六二六

神宮參拜人員ノ二

區別	小學校 人數	小學校 員數	中等學校以上 人數	中等學校以上 員數
内宮	五、六五八	五三〇、〇六二	二、三七九	一六六、九三一
外宮	五、五五二	五七八、五八九	二、六四三	一八〇、七六六
計	二、二一〇	一、一〇八、六五一	五、〇二二	三四七、六九七

宿泊人員

旅館數	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
一〇四	三七一、〇九五	三九八、三六七	四七五、一〇三

接客業

喫茶店	料理店	西洋料理店	飲食店	貸座敷
四二	五八	二七	一九〇	二五

遊戲場

射的場	半弓	麻雀倶樂部	撞球場	魚釣場	雜	計
二五	一	七	一三	一	八	五五

娯樂場

娯樂種目	位置	名稱
演劇其他各種興行	宇治山田市曾禰町	新富座
演劇其他各種興行	同 古市町	長盛座
演劇及活動常設館	同 一之木町	第一世界館
活動常設館	同 一之木町	第二世界館
活動常設館	同 一之木町	帝國座

一〇、生産

生産物總額

區別	昭和九年	昭和十年	昭和十一年

農産	一六二、一四三	円	一七二、九九七	円	一七二、一四三〇	円																	
畜産	一六〇、〇〇五		一六六、四六四		二八、〇九一																		
林産	三八、四五五		三六、九九〇		五六、三三一																		
水産	二九、七四五		五一、五〇五		二三、〇四三、八五四																		
工産	一三、八九三、一四一		一四〇、〇四六、六五一		一三、四二七、八〇三																		
計	一四、二八一、四九〇		一四、四七五、六〇七																				

米作付反別及收穫高

種別	昭和九年			昭和十年			昭和十一年		
	作付反別	收穫高	價格	作付反別	收穫高	價格	作付反別	收穫高	價格
水稻 糯米	一、六一九反	三、一八〇石	九五、四〇〇円	一、五八〇反	三、八七三石	二七、一五八円	一、五八六反	三、一八〇石	九三、一七四円
水稻 糯米	一四〇	二五八	八、二二五	二二九	三〇四	一、〇一八	二二八	二五一	七、五三〇
水稻 計	一、七五九	三、四三八	一〇三、六二二	一、七〇九	四、一七七	二八、一七六	一、七一四	三、四三一	一〇〇、七〇四
陸稻 糯米	六	一三	四一四	—	—	—	—	—	—
陸稻 粳米	六	一三	四一四	—	—	—	—	—	—
陸稻 計	一、七六五	三、四五一	一〇四、〇一六	一、七〇九	四、一七七	二八、一七六	一、七一四	三、四三一	一〇〇、七〇四
合計									

麥作付反別及收穫高

種別	昭和九年			昭和十年			昭和十一年		
	作付反別	收穫高	價格	作付反別	收穫高	價格	作付反別	收穫高	價格
大麥	二〇〇反	二七石	二、六〇一円	一九九反	二一六石	一、七二八円	一九四反	二〇八石	一、九九七円
裸麥	一、〇五六	一、〇七七	一三、二四七	一、一〇六	一、一六六	二二、一六六	一、一九一	一、二三〇	一九、九八八
小麥	一九九	一六二	二、〇九三	二〇五	一六六	二、一二五八	一四八	一二九	二、六七八
計	一、四五五	一、四五六	二七、九四二	一、四二三	一、四九八	一六、〇五二	一、五三三	一、五七七	二四、六六三

食用農產物及蔬菜

種別	昭和九年			昭和十年			昭和十一年		
	作付反別	收穫高	價格	作付反別	收穫高	價格	作付反別	收穫高	價格
大豆	二二六反	九七石	二、〇三七円	二二三反	九五石	二、〇九〇円	二二〇反	九五石	二、〇六一円
小豆	二〇	二二	五〇四	一六	一四	三三六	一四	一〇	二四六
甘藷	一一〇	四一、八〇〇貫	七、一〇六	一二六	四六、七四八貫	七、〇二二	二二八	五四、〇一六貫	八、六四三
蔬菜	二二七	—	九、四九八	二四〇	—	九、八〇四	二五九	—	九、七一
其他	六四	—	八八八	六三	—	七九八	五九	—	七三〇
計	五四七	—	二〇、〇三三	五五八	—	二〇、〇四〇	五八〇	—	二一、四五一

果實

種別	昭和九年 樹數	昭和九年 收穫高	昭和九年 價格	昭和十年 樹數	昭和十年 收穫高	昭和十年 價格	昭和十一年 樹數	昭和十一年 收穫高	昭和十一年 價格
梨	九九三本	二、七七〇貫	八三一円	九六三本	二、六八〇貫	八八四円	六三四本	二、五七三貫	九〇〇円
柿	五、六六〇	二、三八〇	三、五二八	五、〇九〇	二、〇八四二	三、六八六	六、二三	二、四六二	三、四六三
密柑	一、七四〇	二三、一八〇	七、三〇八	一、六七二	二、九五八	六、九三六	一、六三一	二、七四〇	七、〇四四
ネーブル	二八八	四二〇	一、六六	二六六	三〇三	一、三三	二八〇	三三〇	一四九
ナツミカン	一、四三〇	四、五五〇	五九二	二、三六四	六、九八〇	九七七	二、六七二	七、三八〇	一、二〇七
ウメ	四二五	三八石	七〇四	四五二	四四〇	七八八	四四〇	四六石	七八二
モモ	五八〇	五九〇貫	二〇七	五六八	五六五貫	二〇三	五五八	六二〇貫	二四八
ビワ	三九五	三七〇	二六六	三五五	二九三	二二〇	三七〇	三八〇	二七二
ブドウ	三六	四〇	二〇	三六	四四	三	—	—	—
計	二、五三七	—	一三、六三二	二、七二六	—	一三、八九四	三、七〇七	—	一四、〇六五

養蠶

種別	昭和九年 養蠶戶數	昭和九年 掃立量	昭和九年 收繭量	昭和九年 價格	昭和十年 養蠶戶數	昭和十年 掃立量	昭和十年 收繭量	昭和十年 價格	昭和十一年 養蠶戶數	昭和十一年 掃立量	昭和十一年 收繭量	昭和十一年 價格
春蠶	二七	一、三四四瓦	八八三貫	二、三二八円	二七	八七三瓦	五五三貫	二、一六四円	二六	八七〇瓦	五八九貫	三、〇〇八円
夏秋蠶	一四	八八二	五六三	一、二八九	二七	六一八	四六一	二、七七七	二六	六八五	三三五	一、七一八
計	五一	二、四二五	一、四四六	三、六〇七	五四	一、四九一	一、〇一四	四、九四一	五三	一、五五五	九一四	四、七二六

家畜

種別	昭和九年 飼養戶數	昭和九年 飼養頭數	昭和十年 飼養戶數	昭和十年 飼養頭數	昭和十一年 飼養戶數	昭和十一年 飼養頭數
牛	四一	二三三	四四	二三七	四二	二三五
豚	五九	四八九	五七	四八二	四六	四〇七
山羊	一	三〇	一	三〇	一	三一
計	一〇一	七三二	一〇三	七三九	八九	六六三

家禽

區別		飼養戸數	成禽數量	成禽價格	雛禽數量	雛禽價格	合計數量	合計價格
昭和九年	鶏	二四四	二、五七〇 羽	八、八六一 円	四、九三七 羽	一、四八一 円	一六、五〇七 羽	一〇、三四二 円
	鶩	五	八七	六二	六	二	九三	六四
昭和十年	鶏	二〇八	二、四三三	九、三三〇	二、五一七	六二九	一四、九五〇	九、九四九
	鶩	一	一七	一二	—	—	一七	一二
昭和十一年	鶏	二二六	二、七三五	九、六一五	二、六八〇	八〇四	一五、四〇五	一〇、四一九
	鶩	一	一四	九	三	一	一七	一〇

牛乳

年別	搾乳場數	搾乳牛頭數	搾乳量	搾乳價額	搾乳一頭平均搾乳高
昭和九年	六	九七	一、五七〇 石	五一、八一〇 円	一六、一八五 石
昭和十年	六	一〇三	一、六五八	四六、四三四	一六、〇九七
昭和十一年	六	一〇六	一、七〇六	四七、七六八	一六、〇九四

屠畜

種別	昭和九年 頭數	昭和九年 屠肉量	昭和九年 價格	昭和十年 頭數	昭和十年 屠肉量	昭和十年 價格	昭和十一年 頭數	昭和十一年 屠肉量	昭和十一年 價格
牛	四五三	二、〇一四 貫	六八、二六〇 円	五八二	二六、六六三 貫	九三、七三七 円	二九四	一四、三一七 貫	四七、一八八 円
犢	一七	一〇五	一六五	二一五	一五七	二五五	六	三九	六三
馬	五	二四	二四	七	二八八	二八八	二	八一	八三
豚	一四八	一、七二四	五、一二六	一八三	二、一四〇	六、五五六	七一	一、五九六	五、〇三二
計	六三三	二三、〇五七	七三、七六五	七九七	二九、二四八	一〇〇、八三六	三七三	一六、〇三三	五二、三五六

養兎

性別	昭和九年 飼養戸數	昭和九年 滿一年以上	昭和九年 滿一年未滿	昭和九年 計	昭和十年 飼養戸數	昭和十年 滿一年以上	昭和十年 滿一年未滿	昭和十年 計	昭和十一年 飼養戸數	昭和十一年 滿一年以上	昭和十一年 滿一年未滿	昭和十一年 計
牝	三八	二六八 頭	二八九 頭	五七五 頭	五六	一九五 頭	三六七 頭	五六二 頭	二八	一六六 頭	一六七 頭	三三三 頭
牡		一七二	三八	四〇〇		九七	二七一	三六八		一五七	一八一	三八二
計		四五八	五一七	九七五		七九二	六三八	九三〇		三三三	三八二	七〇五

養蜂

年別	飼養戸數	箱數 内國種	箱數 外國種	蜂蜜	價額
昭和九年	四	—	二	八〇貫	一九二円
昭和十年	四	四	四五	二六	四六四
昭和十一年	二	—	五	一〇	二三

林野産物

種目	昭和九年 数量	昭和九年 価額	昭和十年 数量	昭和十年 価額	昭和十一年 数量	昭和十一年 価額
木炭	二三、七三〇貫	三四、一九七円	一九九、四二三貫	三三、九〇〇円	二四、二三〇貫	二四、八二四円
用材	二六七石	一、六七〇	一六一石	一、〇九六	一七三石	一、四〇三
其他	—	二、五七八	—	一、九四四	—	一、八六四
計	—	三八、四五五	—	三六、九九〇	—	二八、〇九一

水産漁獲物

種別	昭和九年 数量	昭和九年 価額	昭和十年 数量	昭和十年 価額	昭和十一年 数量	昭和十一年 価額
鮎	一、六三五貫	五、一二八円	一、四一六貫	三、九六五円	一、五五〇貫	四、〇三〇円
鯉	一五五	三三三	三三七	四七四	一五八	三三三
ウナギ	三五〇	九四五	四六〇	一、二八八	四一〇	一、三二二
其他	一、一四〇	一、二六四	一、四八二	一、六四三	一、一八五	一、三一〇
計	三、二八〇	七、六六〇	三、六九五	七、三三〇	三、三〇三	六、九八四

水産製造物

種別	昭和九年 数量	昭和九年 価額	昭和十年 数量	昭和十年 価額	昭和十一年 数量	昭和十一年 価額

工産物

種別	昭和九年 製造場數	職工數	生産價額	昭和十年 製造場數	職工數	生産價額	昭和十一年 製造場數	職工數	生産價額
			円			円			円
蒲鉾	四、四七〇 貫	一四、七五一	二、八二三 貫	三七、七九八	四五、七三〇	一四、五七〇	二六、六六三	四五、七三〇	一四、五七〇
ツクダニ	一、八五四	—	一、六七〇	四、五〇九	六四〇	一、三三〇	一、六七〇	—	一、三三〇
生節	—	—	三三〇	六四〇	七〇〇	一三五	三三〇	六三五	一三五
アワビ(罐詰)	一七五	九一七	一四〇	一、一四〇	一、三六〇	三四〇	二八五	一、三六〇	三四〇
サヾエ(罐詰)	二六四	一、〇七四	二八五	四四、〇八七	二六、三六五	一六、三六五	一四、三三七	五一、二七三	一六、三六五
計	六、七六三	二一、七八五	一四、三三七						

種別	昭和九年 製造場數	職工數	生産價額	昭和十年 製造場數	職工數	生産價額	昭和十一年 製造場數	職工數	生産價額
			円			円			円
漆器	一六四	四九一	二四七、三〇二	一五九	四八〇	二三三、〇〇〇	一六四	四八七	二六七、〇〇〇
傘	六五	三八四	三三六、〇〇〇	六三	三八五	二九六、〇〇〇	六三	三八六	五八九、三三四
和紙	六〇	三六〇	二二五、六四九	三七	二二五	一六六、一五八	三七	一八二	一三〇、〇〇〇
貝細工	一〇	四六	五七、八一〇	一〇	五〇	六〇、〇〇〇	一三	五六	六三、〇〇〇

種別	昭和九年 製造場數	職工數	生産價額	昭和十年 製造場數	職工數	生産價額	昭和十一年 製造場數	職工數	生産價額
			円			円			円
籐製品	六	五一	二六、七六八	六	五七	二三、九八〇	六	五五	二三、〇三〇
竹製品	一五	四八	八、四三〇	一四	四三	七、四〇〇	一六	四四	八、八六〇
履物	四六	八八	三三八、三五〇	四六	八三	三四二、一〇〇	四五	九一	三四六、三七〇
藁製品	一七	三三	二〇、一三〇	一五	二五	一六、三八八	一五	二三	一八、一一〇
皮革製品	一〇	三一	一七、一〇四	一二	三四	一八、五七〇	一二	二七	二一、三八〇
陶磁器	一	二	一、八〇五	一	二	一、六五七	一	二	二、一七〇
瓦	九	三三	二八、九三九	九	三六	二九、〇三〇	九	三六	三五、八一四
植物油	一	六	二三、二五七	一	七	一九、一六一	一	六	二六、六四三
扇及團扇	三	二四	八、四四〇	三	三三	八、三〇〇	三	三三	九、三三〇
紙國	三	三四	二〇、三七〇	三	三八	二〇、〇〇〇	三	四〇	二一、三〇〇
足袋	八	五七	五四、二四〇	八	五七	五一、〇〇〇	八	五三	五二、〇〇〇
晒	一	二	七〇四	一	二	六三一	一	二	七四七
染物	二六	三五	一八、七八八	二六	三八	二〇、〇七一	二六	三六	一五、六一九
製綿	八	五五	八三、一〇四	八	五七	八七、七〇〇	八	五八	九一、四二五

製絲	二	二九〇	五八一、〇四五	二	二九三	五六七、七七七	二	二六三	五九二、九六六
絹絲	一	一、四七五	六、五〇一、六八四	一	一、二四〇	六、二八四、〇四六	一	八九三	五、〇七四、一一〇
絹織物	二	二九四	三、六九八、九六三	二	四四四	三、八九五、八四七	二	三七一	三、七六一、八四〇
鑄物	二	二六	二三、四一六	二	三〇	四二、九七〇	三	三四	六八、五〇〇
機械類	四	七三	五六、九〇三	四	八六	九一、七五六	四	一三〇	一一七、八九〇
操物	二九	五五	二七、五六〇	二九	九一	六六、二〇〇	二九	九五	六六、二〇〇
指物、箱類	一〇六	二五七	三二五、九八〇	一〇三	二四七	三三九、六八〇	一二〇	二四三	三四九、七〇〇
木箸	一八	四五	一六六、五〇八	一八	四一	一五三、〇〇〇	一八	七〇	一五六、五〇〇
下駄護謨歯	一	六六	一三八、〇二〇	一	六七	一七七、七六三	一	六六	二〇九、七〇三
清涼飲料水	五	四七	三五、〇八二	五	四三	三七、〇四六	五	二四	四〇、三七二
醬油、溜	一三	四一	一三四、七一三	一三	四四	一三三、〇〇〇	一三	四二	一三三、二〇〇
味噌	一三	四一	四三、六四五	一三	四四	四三、六八〇	一三	四二	四八、四八〇
酢	四	一四	一八、一三六	四	一五	一九、五〇〇	四	一五	二三、七八〇
菓子	一三八	一九一	四三三、〇五六	一三一	一八九	四四四、〇〇〇	一三九	一八三	四八九、〇〇〇
小麥粉	一	二	二四、〇〇〇	一	二	一八、〇〇〇	一	二	一八、五五〇
錻力細工	四一	八九	七七、六〇五	三九	八八	七二、五六〇	四〇	八六	七四、九六〇

製氷	一	五	三、八二五	一	五	三、七九〇	一	五	七、一二五
漬物類	二〇	四五	三、九三一	二〇	四八	四〇、三三〇	一九	四八	三、六三三
計	八五三	四、八二四	一三、七八六、六二〇	八一八	四、五四九	一三、九五〇、九〇三	八三九	四、三三六	一二、三四四、五一八

一一、金融

昭和十一年

郵便貯金

預入		拂戻	
口數	金額	口數	金額
二三九、九九六	二、九七四、八七二円	七〇、三三七	二、七八九、三八三円

郵便為替

受入		拂戻	
口數	金額	口數	金額
四九、四八六	七九三、八五三円	五九、七七〇	一、一〇八、一六四円

銀行

區別	本店 數	本店 資本金總額	本店 資本金拂込額	支店 市内ニ本店ヲ有スルモノ	支店 市内ニ本店ヲ有セザルモノ
普通銀行	一	二,000,000円	六六五,000円	—	四
貯蓄銀行	—	—	—	—	一

銀行預金

官公金	一般預金	貯蓄金	計
三五,八八一円	一七,八〇二,三三三円	二,七四三,八九〇円	二〇,六七二,九九四円

銀行爲替

送金	取組金	取代金	取立
一七,六〇四,七九六円	一五,九五四,一七六円	七,三七七,六〇三円	一五,三〇二,九六一円

銀行貸付金

一ヶ年間貸付金	末現在 貸付金	末現在 當座預金貸越	末現在 計
三五,八六三,一八七円	三,五六九,二〇一円	一,八三四,二三〇円	一四,二〇三,四四一円

銀行所在地

所在地	名稱	所在地	名稱
字治山田市大字八日市場町	株式會社勢南銀行	仝曾禰町	株式會社百五銀行曾禰支店
仝岡本町	株式會社百五銀行山田支店	仝豊川町	株式會社不動貯金銀行山田支店
仝河崎町	株式會社百五銀行河崎支店	仝岩淵町	株式會社日本勸業銀行山田出張所

一二、會社及工場（昭和十一年）

會社組織種別

組織	社數	資本金總額	拂込資本金	積立金
株式會社	二〇	三、七六五、〇〇〇円	一、九二九、七八一円	四九一、五〇八円
合資會社	四	五〇五、三一〇	—	一八、七三九
合名會社	元	一、〇七九、五六〇	—	九六、三七五
計	八九	五、三四九、八七〇	一、九二九、七八一	六〇六、六二三

會社業種別

農業	工業	商業	運輸業	計
二	二四	三六	七	八九

會社名

名稱	所在地	創立年月	主要業務	代表者氏名
合名會社 宇治橋公園	字治山田市	昭和六年五月	遊覽場ノ經營	西田一雄
中野合資會社	今在家町	昭和八年九月	土產物販賣	中野浩
株式會社 岩戸屋	今在家町	昭和九年七月	菓子製造及土產物販賣	牧戸淺吉
合資會社 高橋商店	今在家町	昭和九年二月	米穀販賣業	高橋志げ
伊勢國產合資會社	中之切町	大正七年十二月	土產物販賣仲立	岡田辰藏
合名會社 鮓久旅館	中之切町	大正十四年七月	旅館業	森田まつ
合名會社 大安旅館	中之町	昭和六年十二月	旅館業	井村安雄
合名會社 備前屋	古市町	昭和七年一月	貸座敷業	岡本種吉

牧野製靴合資會社	岩淵町	昭和七年一月	製靴業	牧野金七
合資會社 岩淵町會所	岩淵町	昭和八年六月	家屋貸貸業	青木寅藏
株式會社 伊勢朝報社	岩淵町	昭和三年八月	新聞業	西田一雄
宇治山田保險代辨株式會社	岩淵町	昭和四年六月	保險代辨業	森三六
合名會社 竹内商店	吹上町	大正七年三月	吳服太物卸小賣	竹内善兵衛
合資會社 鈴木モータース商會	吹上町	昭和十年七月	自動車修繕業	長野さかゑ
合資會社 マルタケ洋服店	吹上町	昭和六年七月	洋服羅紗生地販賣業	竹内善兵衛
山田合同運送株式會社	吹上町	昭和二年二月	運送及運送取扱業	西川武右衛門
合名會社 山本商店	吹上町	昭和七年一月	米穀販賣	山本三郎
合名會社 笠井商店	吹上町	昭和九年十月	乾物販賣	笠井安兵衛
南島運輸株式會社	吹上町	昭和九年三月	自動車運輸業	尾崎鐵之助
おぼろシルク株式會社	吹上町	昭和十一年五月	擬毛絲製造業	森田庄三郎
合名會社 川元商店	河崎町	大正十年五月	酒類醬油販賣	西山元太郎
伊勢水產株式會社	河崎町	明治四十四年六月	魚市場	橋本金六

山田倉庫株式會社	河崎町	大正九年五月	倉庫業	村田仙右衛門
大正鑛泉合名會社	河崎町	大正七年四月	清涼飲料水製造	西山元助
桝屋合名會社	河崎町	大正十一年五月	味噌醬油製造	山崎宗一
合資會社 山五魚問屋	河崎町	昭和二年五月	海產物委托問屋	山下五郎兵衛
合資會社 和具商店	河崎町	昭和七年六月	陶磁器販賣業	大西彌一
株式會社 榎本商店	河崎町	昭和七年一月	砂糖販賣業	榎本三右衛門
合資會社 勢州織物工場	河崎町	昭和七年三月	綿織物業	山崎直吉
合名會社 奥山商店	河崎町	昭和三年四月	海產物販賣業	奥山藤吉
合名會社小川三左衛門商店	河崎町	昭和七年三月	酒類販賣	小川三左衛門
合名會社 山本久治郎商店	河崎町	昭和七年四月	家具製造業	山本久治郎
合資會社 山田小印石油販賣所	河崎町	昭和十一年八月	石油販賣業	中村歡治
合資會社 吉川商店	船江町	昭和六年十一月	木材販賣業	吉川松太郎
岩田合資會社	船江町	昭和四年二月	提灯製造販賣	岩田繕七
合資會社 朝日自動車商會	船江町	昭和九年六月	貸自動車業	野呂榮吉

伊勢乘合自動車株式會社	豐川町	昭和九年十月	自動車運輸業	丹羽增太郎
合名會社 八百權本店	豐川町	昭和七年二月	青物販賣業	三宅林右衛門
合資會社 岡部商會	豐川町	大正十五年五月	消防足袋被服製造	岡部安十郎
合資會社 山田館	豐川町	昭和十一年三月	旅館業	篠崎萬之助
株式會社 繪畫印刷工藝社	豐川町	昭和十年四月	印刷業	鵜殿傳
合資會社 大山眞珠養殖場	豐川町	昭和十一年八月	眞珠養殖業	大山安松
神都乘合自動車株式會社	本町	昭和七年七月	自動車運輸業	井內彦四郎
伊勢山田旅館株式會社	本町	昭和元年十二月	旅館業	西田一雄
合名會社 丹川商店	本町	昭和八年十二月	砂糖販賣業	丹川榮吉
高千穗館合資會社	本町	大正五年十二月	旅館業	北村甚藏
伊勢屋旅館合名會社	本町	昭和七年六月	旅館業	八木清三郎
中村屋旅館合資會社	本町	昭和六年二月	旅館業	中村てつの
乾合名會社	本町	大正十年七月	造林業	乾碩也
南勢開拓合資會社	宮後町	明治三十九年九月	土地開墾	河村清兵衛

山田米油株式會社	宮後町	明治三十九年十二月	精米業	河村清兵衛
株式會社 糀屋商店	宮後町	昭和九年二月	醬油味噌釀造業	河村清兵衛
合資會社 伊東眞乳舍	宮後町	昭和三年四月	牛乳搾取販賣	伊東はるゑ
合資會社 神都自動車聯盟	宮後町	昭和十一年四月	自動車駐車場賃貸	小久保久吉
合資會社 純產組	一之木町	大正八年四月	土產物木箸製造	加藤政吉
合名會社青果問屋山田商會	一之木町	昭和七年十二月	青物市場業	中西庄助
合資會社 文明堂	一志久保町	大正六年三月	書籍、雜誌、教育品販賣	間宮利七
島田合名會社	一志久保町	大正五年三月	吳服太物販賣	島田長七
合名會社 七家吳服店	一志久保町	昭和七年二月	吳服太物販賣	七家善八
合資會社 五十鈴製藥所	一志久保町	昭和十一年一月	藥品製造業	寺田幸保
株式會社 勢南銀行	八日市場町	大正六年六月	銀行業	奧井周太郎
神都製紙株式會社	大世古町	明治三十九年十二月	和紙製造業	中北喜啓
山田製劑合資會社	曾禰町	明治四十年六月	賣藥製造卸賣	北出健之助
合資會社 中村清記商店	曾禰町	大正十二年六月	和紙製造業	中村重三

村井合名會社	曾禰町	大正十年九月	吳服太物販賣業	村井忠三郎	
合名會社長谷川商店	曾禰町	昭和二年二月	履物製造業	西崎捨藏	
合資會社楠木商店	曾禰町	昭和六年十一月	護謨靴製造	楠木仙次郎	
合資會社永田商店	曾禰町	昭和十年七月	家具製造業	永田鐵藏	
合資會社きぬ屋吳服店	曾禰町	昭和十一年十月	吳服太物販賣業	海渡徹吉	
三光製藥合資會社	大世古町	大正十一年八月	賣藥製造	高村讓	
合名會社秋田洋品店	大世古町	昭和四年三月	雜貨販賣	秋田喜助	
合資會社紙喜商店	八日市場町	昭和三年五月	和洋紙販賣	中北喜啓	
合資會社中瀨株式店	宮町	昭和八年十一月	有價證券現物賣買	中瀨惣八	
合名會社殖産組	宮町	明治十九年四月	活版印刷業	村島元三	
合資會社松崎藥局	宮町	昭和十一年十二月	藥品販賣業	松崎麻次郎	
合資會社中村吳服店	常磐町	昭和四年十二月	吳服太物販賣	橋本善三郎	
合名會社白清舍	常磐町	昭和九年十一月	洗濯業	辻村喜太郎	
合資會社三平商店	常磐町	昭和五年五月	護謨下駄齒製造	三宅俊介	

合資會社中西商店	浦口町	昭和七年一月	自轉車販賣業	中西喜代藏	
合名會社佐々木商店	浦口町	昭和九年三月	米穀販賣業	佐々木正三	
合資會社東出材木店	浦口町	昭和十一年一月	木材販賣	東出安治郎	
合資會社丸大商店	二俣町	昭和五年四月	吳服太物販賣	出口善二	
丸竹合名會社	二俣町	大正十三年七月	足袋製造業	竹內善兵衛	
大正工業株式會社	辻久留町	大正十三年七月	土木建築請負業	西山長治郎	
合資會社小津茶商會	中島町	昭和七年二月	茶販賣業	小津幸次郎	
山田木炭株式會社	中島町	昭和七年七月	木炭販賣業	茂谷木地保	
丹羽合名會社	中島町	昭和十年三月	肥料販賣業	丹羽憲治	
宮川製絲株式會社	中島町	昭和三年三月	製絲業	丹羽增太郎	
南勢運輸合名會社	中島町	昭和十年七月	自動車運輸業	丹羽憲治	

工場業種別

紡織工業	金屬工業	機械器具工業	化學工業	製材及木製品工業	印刷	食料品工業	瓦斯業	其他ノ工業	計

工場

七	二	四	四	八	二	五	一	三	六

工場名	所在地	事業開始年月	主要事業
東洋紡績株式會社山田工場	字治山田市	大正十一年七月	綿糸紡績、綿布製織
西藤機械製作所	船江町	大正十年一月	機械器具製造業
株式會社繪畫工藝社	河崎町	昭和十年四月	印刷業
合名會社殖産組	宮後町	明治十九年四月	印刷業
粟原貝細工店	宮町	明治四十年一月	貝製品製造業
坂本鐵工所	中之切町	明治三十三年三月	紡績機械器具製造業
瀧川鐵工所	宮後町	明治三十年二月	原動機製造業
松井鐵工所	吹上町	大正九年八月	原動機製造業
水谷鑄造所	宮後町	大正十年一月	發動機用鑄物製造業
赤福工場	中之切町	寶永四年月不詳	餅菓子製造業
勢水舍	河崎町	明治二十三年四月	清涼飲料水製造業
日本食料工業株式會社山田工場	船江町	明治四十三年五月	氷製造業

山田米油株式會社	宮後町	明治二十八年十二月	製油業
船江製材所	船江町	大正十一年十月	製材業
樋口製材所	吹上町	昭和六年六月	製材業
山本製罐工場	浦口町	明治二十六年四月	鉄力罐製造業
野村製飴所	曾禰町	大正十四年二月	飴製造業
山本家具製造工場	河崎町	明治十八年二月	家具製造業
吉川家具製造工場	八日市場町	明治四十三年四月	家具製造業
竹内製材工場	吹上町	明治四十五年五月	製材業
山崎製粉工場	宮後町	大正九年一月	製粉業
中村製紙工場	曾禰町	明治四十五年七月	漉返紙製造業
神都製紙株式會社	大世古町	昭和六年十一月	和紙製造業
松本製綿工場	宮町	大正十年十二月	製綿業
久住製綿工場	河崎町	大正三年五月	製綿業
辻製網所	倭町	昭和四年三月	網製造業
竹村漁具製造工場	河崎町	明治四十年五月	漁網製造業

新綾部製絲株式會社度會工場	二俣町	昭和三年六月	生絲製造業
宮川製絲株式會社	中島町	昭和三年四月	生絲製造業
丸竹合名會社工場	二俣町	大正八年三月	足袋、シャツ類製造業
勢州織物工場	河崎町	大正十一年八月	綿クレープ生地製造業
田口製材所	常磐町	大正九年一月	製材業
三平商店工場	常磐町	昭和三年三月	護謨下駄齒製造業
合同株式會社字治山田瓦斯製造所	船江町	昭和三年十一月	瓦斯製造供給及之ニ關聯スル事業
中野製材工場	辻久留町	大正十四年三月	製材業
三村木工所	尾上町	昭和七年一月	木製品製造業

一三、電氣及瓦斯（昭和十一年）

電力

線路亘長	線路延長	白熱電燈		電動力		熱電	
		燈數	使用戸數	個數	使用戸數	個數	使用戸數
七九、九 粁	四六二、九 粁	四九、九六〇	二、〇九七	三七八 キロワット	一六六	一、二一〇 キロワット	四二六

瓦斯

引用戸數	燈用孔口數	熱用孔口數	瓦斯製造高
一、〇五〇	三七七	二、二四五	五〇八、五五八 立方米

一四、各種團體

產業團體

種別	組合數	組合員總數	組合員數 最多	組合員數 最少	主ナル事業

商工會議所

名稱	所在地	創立年月日	議員數 選出議員	常議員	顧問	理事	書記	計	所員數	昭和十二年度經費豫算
宇治山田商工會議所	宇治山田市岩淵町	昭和三年九月一日	三五	七	七	一	四	五	一六、九三〇円	

養鷄組合	一	二七	二七	一
養豚組合	一	六四	六四	一
園藝組合	一	三三	三三	一
農家組合	三	八五	六〇	八
計	六	一九九	六〇	八

養鷄ノ販賣、購入及之ニ關スル材料ノ共同購入
養豚ノ販賣、購入及之ニ關スル材料ノ共同購入
蔬菜園藝ノ改善及共同出荷
農家經營ノ改善方法、肥料、原種ノ共同購入、農産物共同販賣

農會

名稱	所在地	設立年月日	會員數	縣農會議員	縣農會豫備議員	評議員	總代	會長	副會長	幹事	縣農會技手	書記	昭和十二年度經費豫算
宇治山田市農會	宇治山田市役所內	明治四十四年三月十三日	一、二六七	一	一	七	三〇	一	一	二	一	二	一、九〇四円

産業組合

名稱	所在地	設立年月	組合員	出資額 口數	出資額 總額	出資額 拂込濟額	準備金	積立金
有限責任信用組合宇治山田庶民金庫	宇治山田市曾禰町	昭和二年六月	一、一六六	二、七〇四	一三五、二〇〇円	四〇、三四七円	一五、五〇三円	一四、六五〇円
有限責任宇治信用組合	宇治山田市仝中之切町	明治四十四年十月	一三三	四五六	三二、八〇〇	三〇、二二六	四、一七〇	100

工業組合

組合名	所在地	設立許可年月	組合員數	出資口數	出資金	拂込金	積立金
山田傘工業組合	宇治山田市浦口町	昭和十年三月	三六	一八五	九、二五〇円	二、五九〇円	四五円
神都鐵工機械器具工業組合	仝宮後町	昭和十二年四月	二六	二二六	三二、六〇〇	五、六五〇	—

商業組合

組合名	所在地	設立許可年月	組合員數	出資口數	出資金	拂入金	積立金
神都自轉車小賣商業組合	宇治山田市大世古町	昭和九年十月	七五	一六五	四、九五〇円	一、九八〇円	—
宇治山田市牛乳小賣商業組合	〃 宮町	昭和十年五月	一〇	二一〇	六、〇〇〇	二、九〇〇	—
山田穀物卸商業組合	〃 河崎町	昭和十年六月	六	三六	一八、〇〇〇	八、一〇〇	一四三
宇治山田米穀小賣商業組合	〃 河崎町	昭和十一年三月	八七	一七九	八、九五〇	二、二三七	—
高柳通商業組合	〃 曽禰町	昭和十一年十二月	六五	一三五	四、〇五〇	二、〇二五	—

同業組合

所在地	名稱
宇治山田市宮町	山田傘同業組合
〃 岡本町	山田漆器同業組合

準則組合

所在地	名稱
宇治山田市八日市場町	山田紙業組合
〃 河崎町	宇治山田履物業組合
〃 今在家町	伊勢土産物商組合

〃	辻久留町
〃	河崎町
〃	一志久保町
〃	本町
〃	一之木町
〃	一之木町
〃	岡本町

山田染物業組合	
神都疊商組合	
宇治山田米穀業組合	
神都砂糖商組合	
伊勢土産木箸製造加工販賣組合	
伊勢下駄塗製造販賣業組合	
神都寫眞師會組合	

諸市場

市場名	常設臨時ノ別	賣買品目	所在地名	開市日	創始年
合資會社山五魚問屋	常設	鮮魚介	宇治山田市河崎町	毎日	明治九年
伊勢水産株式會社	〃	〃	〃	〃	明治七年
山中魚問屋	〃	〃	〃	〃	昭和三年
山田商會	〃	青物、生果實	一之木町	〃	明治三十六年
世古善	〃	〃	〃	〃	享保二年

教育關係團體

團體名	支部數	會員數	役員數	經費 本會	經費 支部	施設事項
宇治山田市教育會	一〇	七八五人	四〇人	一、四五九円	—円	講究會、研究會、調査
宇治山田社會教育協會	—	二〇七	二五	一、二二五	—	講話會、印刷物刊行
神都體育協會	—	一〇團體	三〇	六八二	—	競技會、體育調査
神都聯合青年團	七	七三五人	一七	一、一八五	三、五〇〇	講話會、研究會、視察見學
神都聯合女子青年團	七	四七三	一〇	五七〇	七三〇	講話會、研究會、視察見學
神都婦人會	七	七六三	七三	五一六	五七三	講習會、研究會、視察見學
宇治山田市教員講究會	七	一七〇	七	一、二〇〇	—	授業研究、視察見學
愛國婦人會宇治山田市分會	—	二、一五三	三七	一、二〇〇	—	救助、軍事後援

一五、議員及吏員

選擧有權者及及議員定員

衆議院議員有權者	縣會 定員	縣會 有權者	市會 定員	市會 有權者
一〇、六〇七	二	一〇、〇二六	三六	一〇、〇二六

市參事會

開會度數	出席延人員	議事件數
一六	九七	市會ノ委任ニ依リ參事會ニ於テ議決シタル件數 六二

市會

委員

開會日數	出席延人員	議案件數	内譯			
		可決	認定	否決	選擧	決定	撤回
一三	四〇〇	四四	三六	四	一	一	二	二

常置委員	學務委員
五〇	一〇

市吏員現在數

職名	人員	職名	人員
市長	一	都市計畫技手	一
助役	一	都市計畫技術員	一
收入役	一	都市計畫書記	一
主事	四	度量衡取締員	一
技師	一	專任産業統計調査員	一
書記	三	職業紹介所事務員	一
技手	四	市立傳染病院書記	一
書記補	九	公益質屋事務員	二
掃除監督	一	神都記念館事務員	一
掃除巡視	四	計	七六
雇員	一八		

一六、財政

市經濟

昭和十二年度市歳入歳出豫算

歳入

年別	歳入	歳出 経常部	歳出 臨時部	一人平均
昭和十年	四七三、一五一円	三六四、六五一円	一〇八、三〇〇円	九、四一四円
昭和十一年	七〇五、四八六	三七四、七六七	三三〇、七一九	一四、八六〇
昭和十二年	五二九、六九四	三八六、五四八	一四三、一四六	一〇、三五九

款	金額	款	金額	款	金額
財産收入	三、八六一円	使用料及手數料	五一、五三一円	交付金	一三、三八一円

歳出經常部

款	金額	款	金額	款	金額
國庫下渡金	三五、五二四	國庫補助金	一四、四九九	縣補助金	五、〇五五
奬勵金	七二五	寄附金	六、二二三	財産賣拂代金	九、一七八
繰越金	一、七五〇〇	雜收入	三四七、二四六	市稅	三五、九八一
計	五二九、六九四				

款	金額	款	金額	款	金額
神社費	五、五二五 円	奉祭費	二〇〇 円	奉迎費	五〇〇 円
會議費	四九三	役所費	八、五〇六	土木費	八〇、五九三
敎育費	二二五、四〇三	學事諸費	一、一八六	傳染病豫防費	二、四四七〇
傳染病院費	六、一九五	衛生費	一〇、七三〇	汚物掃除費	六、二九七
墓地費	五八	火葬場費	一三、〇〇八	社會事業費	一、一七〇
勸業諸費	六、七七	統計調査費	一、〇九二	罹災救助費	一、六六一

款	金額	款	金額	款	金額
財産費	三、三〇二	諸稅	一〇一〇	公金取扱費	一五九
雜支出	一、五四〇	豫備費	三八六、五四八	計	四、〇〇〇
公會堂費	一、一四八	警備費			一三、五一五

歳出臨時部

款	金額	款	金額	款	金額
大聖地國營協贊會助成金	一、〇〇〇 円	納稅奬勵費	一、五五〇 円	積立金	三一九 円
事業調査費	二、一五四〇	警備費	一〇、八〇〇	公債費	七九、一五五
各種基金施設費	一九三	財産充用積戾費	四、七二〇	訴訟費	五
補助費	六、八五〇	土木費	一四、六二〇	雜支出	二、四九〇
寄附金	五、五〇〇	勸業諸費	七一八	計	一四三、一四六
役所費	三、四二六	汚物掃除費	二六〇		

税租

年度別	國税	縣税	市税	計
昭和九年	一四五、八九五円	二五二、三一四円	三〇二、六二四円	七〇〇、八三三円
昭和十年	一六六、三三五	二五八、九九六	三三五、二四三	七六〇、五六四
昭和十一年	一七八、七六一	二六七、九九七	三四九、五〇三	七九六、二六一

負擔割合

	國税	縣税	市税	計
一人割	三、四九円	五、二四円	六、八三円	一五、五六円
一戸割	一六、六八	二五、〇一	三二、六二	七四、三一

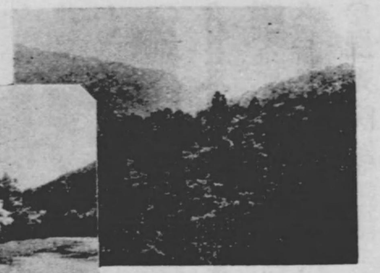
一七、官公署

位置	名稱	位置	名稱
浦田町	神宮司廳	岡本町	三重刑務所宇治山田支所
浦田町	神宮神部署	宮後町	山田驛
内宮宮域	神宮警衛部	常磐町	山田上口驛
岩淵町	宇治山田警察署	常磐町	名古屋地方專賣局宇治山田出張所
外宮宮域	宇治山田憲兵分遣隊	岩淵町	三重縣山田工區事務所
岩淵町	宇治山田税務署	岩淵町	度會郡各種團體事務所
岡本町	山田區裁判所	岩淵町	蠶業取締所宇治山田支所
豊川町	山田郵便局	岡本町	安濃津供託局山田出張所
一志久保町	山田保險局分室	岩淵町	三重縣木炭檢査所宇治山田出張所
岩淵町	宇治山田市役所	岩淵町	穀物檢査所宇治山田出張所
本町	三重縣商工奬勵館	宮後町	宇治山田市公益質屋
岩淵町	宇治山田商工會議所	岩淵町	神都圖書館
岩淵町	宇治山田市職業紹介所	岩淵町	神都記念館
		岩淵町	神都公會堂

附

錄

名所舊蹟



神路山

五十鈴川

○神路山

天照山、神垣山、大山、宇治山など、稱し、皇大神宮の南方一帶に連亘せる靈山にして、往古は、此の山を式年御造營の御杣に定められしことあり、皇大神宮の御料山なるを以て、御造營材料の外は古來斧鉞を入れず、重疊たる峻峰、千古の翠色を籠め、水石鄰々たる五十鈴川其の麓を流る。實に神境たるを偲ばしむ。

○五十鈴川

又御裳濯(ミモスソ)川とも稱す。水源二派あり、一は神路山より發し、一は伊勢志摩の國境なる逢坂山より發し、皇大神宮宮域を貫流して兩派合一となり、後ち宇治橋を潛りて北流し、又二派に分れて伊勢海に注ぐ。長さ四里三十餘町、流水清洌環嶺幽邃にして崇美を極め、禁漁區域には鮎鯰など悠々自適し、御手洗場より上流には奇岩珍石散布し奔湍深淵其の間に介在す。就中、鰒石、海鼠石、屏風

岩、御舟岩等其の形狀を以て著はれ、西行戻りは、西行法師嘗て此の處に遊びて、景致之に如くはなかるべしとて、其の奥を尋ねずして戻りし勝地なり。

○林崎文庫趾

宇治橋の西方なる鼓ヶ岳の麓に在り、内宮神官等の建立せし所にして、貞享年間幕府より黄金百五十兩を寄せられしより、其の規模大に整ひ、天下の諸侯學者等其の藏書及著書などを神宮に奉獻すれば、大概此の文庫に收藏せり。明治六年建物藏書等一切を神宮に獻納し、神宮に於ては同三十九年五十鈴川の東岸に新に書庫を建て、書籍はこれに移せしも建物は其の儘保存せらる。此の地、前庭には櫻楓を交植し、後には鷲嶺神路等の連峰を負ひ、前には内宮、神苑の叢林あり、四時の風光甚だ佳なり。

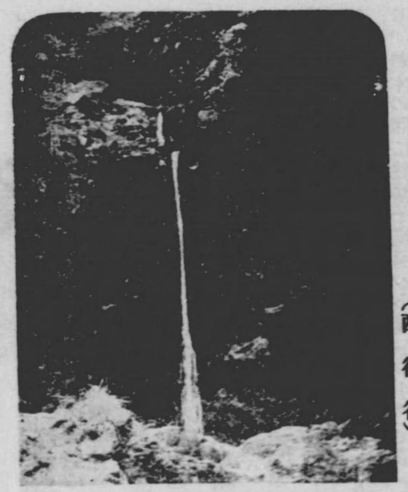
○如雪園

參宮電車内宮停留所と宇治停留所との間なる西方の高臺地に在り、德川氏の中世内宮一禰宜中川經高の別業を營みし遺蹟にして、大正十年大阪の人帶谷傳三郎之を開拓して、一萬三千餘坪の遊園地となし、園内には神宮參拜者のために大休憩所並に講演場を建設し、皇族其の他高官の登臨せらるゝこと數々あり。

○慶光院趾

參宮電車宇治停留所の南方に在り、代々尼僧の承繼せる寺院にて、其の先住なる守悅、清順、周養の三上人は、何れも

足利氏の末世、兵馬倥偬の際、神宮の久しく荒廢せるを慨き、諸國を勸進して、正遷宮の大典を擧げ、爾來德川氏の中世に至るまで、正遷宮のことに關係せる由緒ある寺院にて、宸翰其の他什寶數多を所藏せり。明治維新後、俗家となり他に移り、其の建物今は祭主官舍となれり。明治三十八年十一月行幸の際、其の功勞を思召され、清順に從三位、守悅周養に各正四位を御追贈遊ばされ猶家門維持のため若干の金員を下賜せられしなり。



（西行谷）

○西行谷

宇治大橋より八九町なる西方の山麓に在り、保延年中西行法師の來りて隱棲せし所、其の妻落飾して草堂を營みて身を終へしより代々尼僧の住寺なりしが明治維新後廢寺となれり。此の地、谿流落ちて小瀑をなし、環境幽靜にて、雅客の杖を引くもの少からざりしなり。

○藤浪松

參宮電車宇治停留所の東南方に在り。幹の回り十一尺餘、高さ五間餘其の狀恰も龍の蟠居せるが如く、枝の長きもの六十尺あり、慶長の末年、内宮一禰宜藤浪氏富、内勅を承りて、齋館を邸内に

新築したるとき移植したるものにて氏富後に至りて、破格の宣旨によりて從二位に叙せられしかば、世人之を二位の松と稱せり。然るに寛延四年正月元日、山田奉行堀伊賀守、藤浪家に詣りて、此の松の奇狀なるを愛で、臥龍松と命名されしより、其の名益々高く、後有栖川宮の御感に入り御染筆の懇紙をさへ賜はりし光榮ある松樹なりとす。

○猿田彦神社

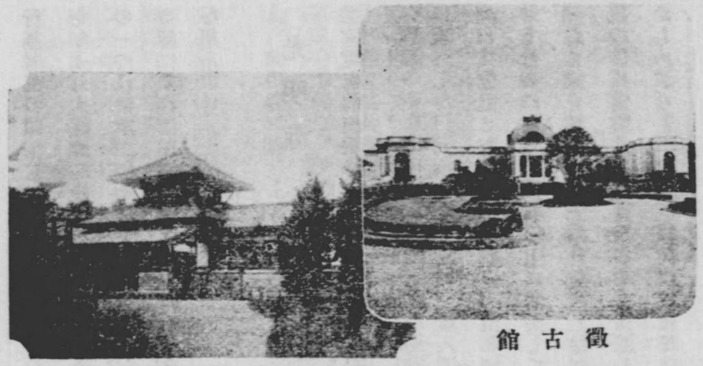
參宮電車宇治停留所の西方に在り。祭神は猿田彦命及太田命にして、 祠官は其の後裔宇治土公家の世襲なり。方除け、家作りの守護神にして、遠國よりの參詣者又祈禱依頼者共に多し。

○古市遊里

内外兩宮の中間に在り、山田驛より二十二三町、往昔は一帶の連峰にして長峰と稱せしが、天正年中神都の奉行たりし稲葉氏、豊臣氏の命によりて、これを墾して坦途を開き、兩側に松櫻を交植して參宮人に便せしが、慶長元年の頃より、並木の間に竹格子揚蔀の小屋を作り、女婦を置きて休憩所となしたるに、年を追ひて繁榮し、享保の頃より終に一大遊廓となりしなり。就中伊勢音頭の舞曲、其の名最も高くなれり。

○御陵墓傳説地

倭町の北端に在り。古來倭姫命の御陵墓なりとの傳説ある石窟なれども、未だ確定せず。是を以て明治四十二年三月、宮内省より、「倭町共有林内の古墳は、自今御陵墓傳説地として、當省に於て之を保存す」、との辭令を不附せられしなり。



徵古館

農業館

○徵古館、農業館

倉田山公園の内に在り、山田驛を距ること二十二三町、内宮行電車途中下車の便あり。公園と共に神宮司廳の管轄にして、徵古館には、神宮寶物をはじめ、各時代の服裝器具、文書、繪畫等を陳列し、農業館には農具、水産、牧畜、工藝等に關する器具、標本、模型、統計を陳列して、公衆の觀覽に供し、園地又天然の勝景に人工の美巧を加へ、其の風致恰も繪畫の如し。

○明治聖代戰役記念碑

尾上町虎ヶ尾山嶺に在り。昭和三年四月竣工にして、記念碑は、赤目花崗岩及鐵筋コンクリート造にて、青銅製鑛金の金鴉像を戴き、題字は東郷元帥の筆にて、高さは金鴉六尺五寸、塔身三十六尺あり、此の地後方一帶は翠屏圍繞すれども、前面は展望千里、舊稱山田ヶ原の大半一眸に入り、伊勢海を隔て、雲山の連亘せるなど、其の風光の壯大なること、本市第一なりとす。

○世義寺

岡本町瀧浪山に在り。眞言宗の古刹にて、天平年間、聖武天皇の勅願によりて

行基僧正の開創したるものなりといふ。古昔は塔頭數多ある大伽藍なりしが、今は其の内の一院の存するのみなれど、毎年七月大護摩を修行し、農業者の參詣するもの夥し。什器中、土製の經筒二つ、大刀一口は貴重なるものにて、經筒の一つは治承二年七月十二日造之とあり、一つは無銘なれども長寛年間中のものなりといふ。大刀も亦無銘なれども、寺傳によれば正宗の作なりといふ。身の表に天照皇大神宮の六字、裏に倶利伽羅不動を浮彫し、毎年大護摩の時にこれを用ふ。

○光明寺

參宮電車前田乘降所の西方に在り。天平年中、聖武天皇の勅願によりて、度會郡前山に創建せられ、金光明最勝王經日課を以つて、寶祚長久萬民快樂を祈りし天台眞言兼帶の寺院なりしが、後年に至りて山田吹上村に移りしに、寺運次第に衰へしを、元應年中、結城宗廣入道道忠の息男惠觀月波上人、之を再興して禪宗に改め、伽藍を增築し、子院數棟を列れて宏壯となれり。惠觀は、南北朝時代に至り、北畠親房、結城宗廣等の當地に來りて、南勢に於ける勤王者を鼓舞せしむるに當り、法衣の上に武裝して、近海の警備、軍糧の徵發等に努め、後ち又東北に下り、親房の密使として、奥州なる家兄親朝に勤王を力說せしなど、王事に勤めし僧なりしなり。又同寺の撞鐘は神都唯一のものにて、後深草天皇の御代常磐井入道實氏の寄進せしものにて、古來神都に於ては鐘を撞くことを禁ぜられしを以て、兩宮神官等之を撞かしめざりしに、豊臣時代に至りて、同家祈禱師上部越中に愁訴し、終に秀吉の特許を得て、毎日二回づゝこれを撞く

ことゝなれり。然るに寛文年中山田の大火に、寺堂梵鐘共に類燒せしかば、山田奉行の命によりて、現地に移轉し、梵鐘をも改鑄せしが、其の後再び衰運に傾き、今は堂塔鐘樓の存するのみなれども、多くの什寶を有し、學者の來院するもの少からず。光明寺藏書殘篇、結城宗廣同夫人の書翰は共に國寶となり、其の他北畠親房、豊臣秀吉の下知狀等貴重なるものあり。

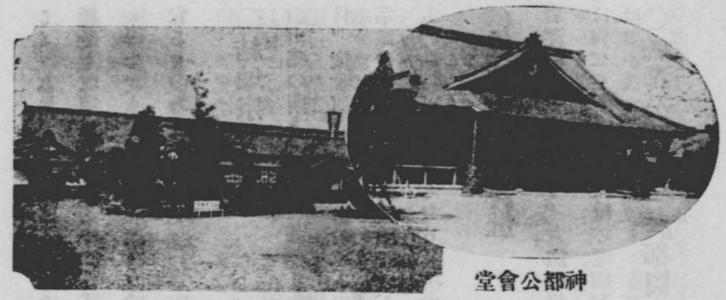
○結城宗廣墳墓

山田驛の南方にあり。宗廣は北畠親房等と共に、義良宗良兩親王を奉じ、東北の官軍を糾合せんがために、延元三年八月、度會郡大湊より出船するや、不幸にして遠州灘に於て暴風雨に遭ひ、五十餘艘の船舶或は沈沒し或は四散せしが、宗廣の乘船は、伊勢に漂着せしかば、當地に在りて再擧を謀らんとせしも、偶々重病にかゝりて遂に光明寺に於て卒去し、此の處に葬りしなり。境内に其の子勤王僧惠觀月波上人の墳墓あり。

○箕曲中松原神社

岩淵町の中央にあり。大歲神以下諸神を奉齋し、千百餘年の古社なるのみならず、當市土産神社中の大社にして、縣社に列せらる。域内に楠の老樹あり、古來鳥居を立てゝ神祠せらる。

○神都公會堂、神都圖書館



神都公會堂

神都記念館

兩館相竝びて市の中央部樞要の地區にあり。箕曲中松原神社の境域に接し敷地五千五百二十九坪を有す。昭和二年十二月工を起し翌三年竣成す。建坪二百廿一坪大集會場控所を有し廻椽を廻らせる總檜の神造殿なり。

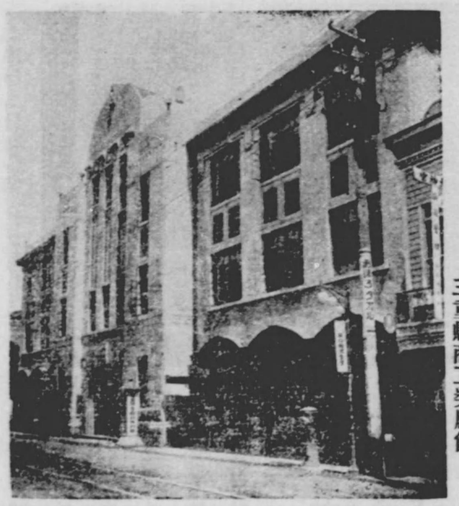
市立神都圖書館は公會堂と竝び立ち、其の間に渡廊下あり、元市内常磐町にありし專賣局宇治山田出張所廳舍にて寛永年間の創設に係る。舊師職橋村肥前大夫館を其儘に移轉し内部に改造を加へたるものにして、蓮隨山梅香寺と共に神都最古の建造物たり。建坪百三十八坪を有し、貴賓室、圖書室、事務室等數室あり、藏書約九千餘册。

○神都記念館

神都公會堂に隣接せる二棟の銅御殿は、昭和五年春開催せし御遷宮奉祝神都博覽會の一施設にして、當時隨一の呼物となり、遍く江湖の賞讃を博せし御物館、歷史館を其儘存置したるものにして、御物館は昭和三年御大禮造營物の一たる京都御所内神樂舍を御下賜により移轉修築したるもの。博覽會中は大禮御使用の御物を奉展し尙ほ帝國勳章全部を展覽せしが博覽會終了と共に之を返上し、更に神宮司廳寄贈の

御遷宮模型を陳列弘く觀覽せしめつゝあり。

歷史館は我が建國以來の史蹟十八種を選び油繪を背景とし活人形を配置し電氣照明によりて、精巧なるパノラマを展開せるものにして、史實は文學博士上田萬年氏、神宮皇學館長森田實氏の選定にかゝり、又構想圖は久保田金僊畵伯、油繪は茂木習古氏、人形は庄田七郎兵衛氏、電氣照明は遠山靜雄氏等東都斯界の權威者が畢生の心血を注ぎし一大傑作なり。開館以來高松宮、祭主宮、東伏見宮、閑院宮、賀陽宮、各宮殿下の台覽を賜はり每々褒詞を忝ふし大官貴紳亦必ず駕を枉げて觀賞を吝まれざるは神都の誇りとする所なり。



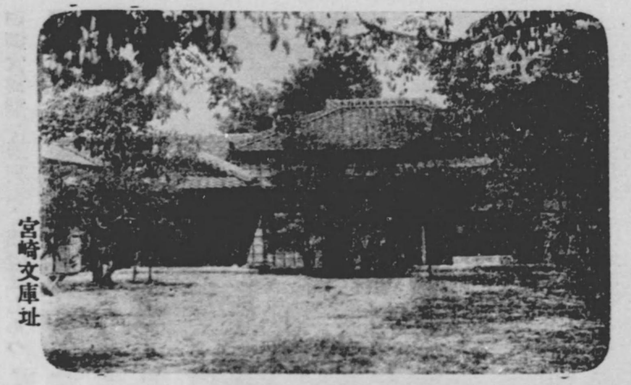
三重縣商工奬勵館

○三重縣商工奬勵館

驛前通にあり、同館は大正十五年七月十一日開館したり。館内に縣下主要產物を網羅し旅客に對し本縣物產を紹介する外卽賣所の設あり、旅客の便に供す。

○高倉山

豐受大神宮宮域に屬する神山にして、同宮御鎭座後は、天然の藩塀となりて東南を擁護せり。斧鉞を入れざる靈域なれば、老樹蔭



宮崎文庫址

々として積翠滴るが如く肅然として恐敬の念を起さしむ。其の山に上大なる岩窟あり、外宮御鎭座以前の結構にして、窟内奥行五丈六尺餘、口徑高さ九尺、横六尺、奥に至れば高さ一丈二尺横一丈五尺あり、世俗これを天の岩戸と稱して參詣するもの多かりしが、近時、神宮に於て其の通路を遮ぎり入山することを禁ぜられたり。この岩窟は、往昔神國の棲み給ひし跡なりともいひ、又倭姫命の墳墓なりとも稱すれども、未だ確定せず。

○宮崎文庫址

外宮宮域の東方なる岡本町宮崎にあり。文庫は、慶安元年外宮祠官出口延佳、與村弘正、岩出末清等發企し、祠官子弟の修學に便せんがため、同志七十餘人の醵金によりて創立せし所にして、幕府よりは維持費として二十石の采地を下附し、諸侯碩學よりは珍籍奇書の寄贈あり又諸學者の來邸して講説するありて其の名遠近に傳はり、明治維新後には鄕學校となり、又同七八年には英人を雇聘して語學校を開きしが、後故ありて一私人の手に移り、同四十三年には書籍什器一切を神苑會に讓渡し、同會より更に之を神宮に獻納し、庫舍は大正十二

年史蹟名勝天然記念物法第一號によりて史蹟に指定せられたり。

○宮崎文庫の御屋根櫻

慶安元年文庫創立後、其の發起者出口延佳の屋上に、山櫻の寸苗自生せしかば、延佳之を異とし、文庫の庭内に移し、後ち孝分して數株となり、後年豐受大神宮御屋根に、自生せし櫻苗を此の所に移植せしより、御屋根櫻と稱し、年を追ふて蕃殖し、近時殊に其の培養に心を注ぎしかば、春時の美觀いふばかりなく、加ふるに此の地、南方は翠山に圍繞せられたる一面の平原にして、叢林各所に散在し、細流其の間を流れ錦河内又は錦小河などゝ稱せられ、風光甚だ佳なり。

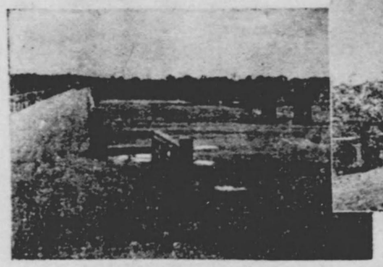
○蓮隨山

當山は豐受大神宮宮山の西方に接せる小山にして、高さ二十餘丈、此の地亦東南は高倉山其の他の翠峰に包圍せらるゝも、西南は展開して、當市上口方面の全部を瞰下し、宮川の介流せる原野を隔てゝ、伊勢海を遠望すべく、其の風致の壯快なるのみならず、元和元年に創立せし梅香寺の古堂の現存するあり。庭内の藤花亦美觀にして、其の候には遊客夥し。

○大間國生神社（オホマクナリノジンジヤ）、草奈伎神社（クサナギノジンジヤ）

共に山田上口驛の附近に在り。豐受大神宮の攝社の首班にして、大間國生社は神國造衆大神主大若子命並に其の弟にし

て、同職を繼げる乙若子命を祭る。草奈伎神社は、垂仁天皇の御代、越の國に凶賊發起し、大若子命勅命を承けて討平せし時下し賜はりし標の劍を鎭め祭る。草奈伎の號は日本武命の寶劍に比べて、後人の稱せしものなりといふ。



宮川

宮川堤の櫻

○宮川堤の櫻花

宮川は近時まで舟渡にて、當市に往來する渡口二ヶ所あり、何れも山田驛より二十數町のところにあり、上流なるを柳の渡、下流なるを櫻の渡と稱したり。櫻の渡は京攝關東よりの國道にして、明治初年附近の里長等堤上を歡樂地となさんと欲し、有志者と協力して、柳の渡口まで櫻樹を補植し、近年は又市費を以て其の栽培に努めしかば、春候には長堤一帶の花雲となりて、觀客雜踏するに至れり。

○宮　川

度會川とも稱す。大和、紀伊、伊勢三ヶ國の堺なる大臺ヶ原山より發し、大杉谷三瀨谷等を經て、野尻川に會し、又一ノ瀨川を合せて、當市の西を限りて伊勢海に入る。長さ三十二里餘、舟筏の便あり、鮎鯉等を產す。殊に鮎は古來神宮に供進せらるゝ例にて、明治維新までは、禁漁區域を定められ、神宮祠官出張して、

鮎漁の神事ありしなり。又宮川は神地に入る門口なれば、往昔は齋內親王、勅使等參向の節は、此の河原なる祓所にて祓を受けさせられ、三節祭には大神宮禰宜以下此所に參集して祓を修めしなり。明治維新後も勅使參向の節は、神宮主典出張して修祓の式を行ひしが、參宮鐵道延長後、同三十八年祓所を山田驛前なる世木社境內に移されたり。

名　產

○漆　器

市內八日市場町大主家は古來大塗師屋と稱し、塗師の棟梁にして其の製造品中最も著名なりしと云ふ。之れが創製の年代は詳かならずと雖も、口碑の傳ふる處によれば足利の末世兩大神宮の工匠神宮御造營材の兩端猿口と稱する不用材の拂下を受け內職とし、白木のまゝにて箱物を製造したるに始り、後汚染を嫌ひて塗を加ふるに至りしが其の檜材たることを現さんがため、特に春慶塗となせしと云ふ。此の漆器は品質堅固、價格亦低廉なるを以て日常の使用に適し廣く全國に移出さる。

○傘

和傘の製造は德川時代より本市師職の手代等の內職たりしが、明治維新以來師職の廢止に伴ひ之れが專業者漸く增加し品質の堅牢と價格の低廉を以て好評を博し今日の聲價を揚ぐるに至れり。

○和　紙

塵紙類は舊德川時代より之を業とするものあり、明治維新後當業者相謀り共同の製紙場を營みつゝありしが、神宮御用紙製造の神都製紙株式會社設立せらるゝに及び爾來愈盛況となり、今や年產額拾六萬圓を超え殊に白中、青中の種類は品質の良好を以て廣く全國需用者の嗜好を迎へつゝあり。

○刳物細工

明治初年信州より木材刳物に熟練せし者當地に來遊の際其の傳習を受けたる者相集りて榊、椿などにて木盃、腰サゲ根付、獨樂類を製作なし參宮道者の土產物として販賣したるに始まり、爾來製品に改善を加ふると共に盆、茶臺、筆筒、玩具などを製作し次第に盛況を呈し今日に至れり。

○箸

明治五年頃榊、杉並に南天にて箸を削りて店頭に並べ參宮道者の土產物としたるが、價格低廉にして土產物に適し非常に好評を得たるを以て之を專業とせるもの遂次增加し、現今に於ては本市土產物店にてこれを陳列せざるものなきの盛況を見るに至れり。

○赤福餅

白き餅に小豆餡を被せたり。寶曆、明和の頃創製したるものなりと云ふ。伊勢名物中の白眉なり。

○糸印煎餅

鷄卵入小麥粉の煎餅にしてその表面に高雅なる糸印を出せしものなり。神宮大宮司冷泉爲紀支那輸入の綿糸に附しある印影に雅味を認め之を用ひせしめたるによると云ふ。

○生姜糖

寬政年間創製と傳へられ、白砂糖を煮つめて之に生姜を加へ冷えるを待つて一定の形に流しはめたるものにして、永く保存に堪へ參宮土產として其の名高し。

○大閤餅

米の粉を大きさ二三寸程の煎餅の如く薄くなし中に餡を入れ燒きたるものなり。其の名の由來は大閤秀吉の賞美なしたるによるとも、亦遊客と共に來る幇間を待遇する料たりし爲とも云ひ創業年代は不明なり。

昭和十二年十一月五日印刷
昭和十二年十一月十日發行

〔非賣品〕

發行所　宇治山田市役所

宇治山田市大字本町百八番地ノ一
發行者　齋藤眞澂

宇治山田市大字岡本町二百十七番地
印刷者　橋爪武雄

宇治山田市大字岡本町二百十七番地
印刷所　橋爪活版所

宇治山田市役所

79
3